

ANNUAL REPORT

2015 – 2016

No. 39



Division of Policy and Planning Sciences,
Faculty of Engineering, Information and Systems,
University of Tsukuba

まえがき

筑波大学システム情報系社会工学域は、社会問題（経済，経営，都市・地域等に関わる諸問題）を理工学的（分析的，数理的，計量的）アプローチによって解明し，政策的および計画的な意味合いを見出すという研究上の共通目標をもつ研究者の組織である。2016 年 4 月現在の本域所属の教員は，教授 22 名，准教授 20 名，講師 2 名，助教 11 名の合計 55 名、連携大学院教員 8 名（教授 5 名，准教授 3 名）を加えると 63 名である。それぞれの構成員は，国際的に認められる質の高い研究成果を上げるように，また良き教育者であるように努めている。本専攻教員の 2015 年度中の研究・教育活動は，以下のように総括できる。

(1) 研究活動

本域の研究活動は，2015 年度も全分野（社会経済，経営工学，都市計画）にわたって活発に展開した。論文・著書に関しては，最も重視している審査付論文数が高水準を維持している。競争的研究資金の積極的導入に努め，外部研究資金を着実に獲得している。2015 年度の科学研究費の採択本数は 11 件（基盤(B)5 件，基盤(C)2 件，挑戦的萌芽 3 件，若手 1 件），継続 25 件（基盤(A)3 件，基盤(B)3 件，基盤(C)11 件，挑戦的萌芽 3 件，若手 5 件）と合わせると 36 件となる。

また，研究教育活動をさらに加速させるために組織力を保持するグループ研究を促進している。2016 年 5 月現在，リサーチユニット 13 件，リサーチグループ 13 件にて本域教員が代表者となっている。

(2) 教育

本域の教員が関連する大学院教育組織に関する大きな動きとして，昨年度より，社会システム・マネジメント専攻，社会システム工学専攻，経営・政策科学専攻を改組し，社会工学専攻が発足した。その中で博士前期課程(システム情報工学研究科)においては社会工学学位プログラムとサービス工学学位プログラムの二本柱で教育を推進している。これに加え，旧課程の社会システム工学専攻と経営・政策科学専攻の他に，リスク工学専攻，生命環境科学研究科環境科学専攻で教育活動を行っている。一方，博士後期課程(システム情報工学研究科)では，社会工学専攻に加え，旧課程である社会システム・マネジメント専攻の他に，リスク工学専攻において教育活動を行っている。これらに加え，学類教育組織は，理工学群社会工学類，および社会・国際学群国際総合学類の教育を本域では担っている。

これら教育組織ではカリキュラム等教育体制を定期的に見直してきた。加えて，社会工学専攻では改組前の 2008 年度より院生活動支援プロジェクトを実施し，自前の予算で学生による国内外の研究発表を経済的に支援している。また，社会工学専攻の博士後期課程では改組前の 2007 年度より「社会人のための博士後期課程早期修了プログラム」履修生として社会人を継続的に受け入れている。さらに，社会工学専攻さらには社会工学類の一部の講義では，教育の高度化を目指し，グループ作業，フィールドワーク，インターンシップなどを積極的に取り入れている。なお，社会工学同窓会，社工都市計画同窓会等を通じた卒業生との交流も本学では最も活発である。特に，2008 年から社会工学類の優秀な卒業生 3 名に与えられる倉谷賞は社会工学類生の研究活動を大いに鼓舞している。

(3) 国際交流などの社会貢献

教育や研究以外にも、様々な学内外貢献を行っている。本域教員が責任者となっている国際交流協定は、清華大学、浙江大学、北京航空大学、香港理工大学（中国）、漢陽大学校、弘益大学校、韓国国土研究院、ソウル市立大学校（韓国）、ウィーン経済・経営大学（オーストリア）、ルール大学ボッフム校（ドイツ）、アル・アハワイン大学（モロッコ）と多岐にわたっている。これらの大学・研究機関とは、若干名ながら研究者および学生の交流・交換が続いている。その他の機関からの外国人研究者の受け入れや本域教員の海外派遣は極めて多く、国際的な研究交流が盛んであることを示している。

さらに、実学も重視し国、自治体、企業などとの連携も含め多様な社会貢献、地域貢献を行っている。国における都市計画制度の改革や、茨城県内5市（北茨城市、高萩市、神栖市、潮来市、鹿嶋市）と東日本大震災からの復興に関する協定締結において、本域教員が中心的役割を果たした。また、多数の出張講義・公開講座、本学主催の高大連携シンポジウム開催など社会連携活動へ大いに貢献した。さらに、サービス工学分野ではその研究領域の特性を活かし、ビックデータ分析の研究拠点として関係者の耳目を集めている。

(4) 組織

本域教員の流動性が高く、それに伴い審査付学术论文を重視する採用・昇任人事が経常的に行われてきた。しかし、昨今の採用人事制度の変更に伴い、優秀な人材を確保・維持していくためには、組織力のより一層の強化が求められる。

本域教員は、様々な研究分野・職歴・国籍をもち、工学系の域としては女性比率も高い。構成員の中で助教の構成比を高めることで、若手教員の比重も高めている。多様な教員間の活発な交流が、相乗効果により研究成果の向上をもたらしている。本域の更なる成長のためには、研究・教育意欲を刺激するような環境と開かれた運営体制を整備し、中長期的視野に立ち有能な人材を確保することが必要である。同時に、研究、教育、学内外の貢献に関して定期的な記録と自己評価・点検により、社会的説明責任を果たさなければならない。昨年度に実施した社会工学専攻への改組では、本域が伝統的に有していた強みを発揮するとともに、組織力を生かした運営を通じ、社会的知識・論理的思考力・各種の工学スキルを持って社会問題を解決できる、豊かな人間性を兼ね備えた視野の広い人材を育成していきたい。

本報告書が構成員及び関係者の意識向上に貢献するとともに、本域の活動を知っていただく上で有効に活用されれば幸いである。

2016年6月16日

社会工学域長、社会システム・マネジメント専攻長、社会システム工学専攻長、
社会工学専攻長
谷口 守

大学院の歴史

1973年	筑波大学開学
1976年	大学院、経営・政策科学研究科が発足する。
1977年	学部組織、第三学群社会工学類が発足する。
1978年	大学院として、博士課程（5年一貫制）の研究科である社会工学研究科が発足する。計 量計画学専攻、経営工学専攻、都市・地域計画学専攻の3専攻から構成された。
1994年	社会工学研究科の都市・地域計画学専攻で、連携大学院方式が発足する。
1997年	社会工学研究科の改編がなされ、社会経済システム専攻、システム情報数理専攻、都 市・環境システム専攻、計量ファイナンス・マネジメント専攻の4専攻体制となる。
2000年	社会工学研究科がシステム情報工学研究科に編入され、社会システム工学専攻と計量フ ァイナンス・マネジメント専攻の2専攻に改編される。社会システム工学専攻は社会経済 システム分野、システム情報数理分野、都市・環境システム分野の3分野で構成される。
2001年	経営・政策科学研究科が従来の経営科学分野と政策科学分野を、MBA、ビジネス情報数理、 社会経済システム、都市計画の4コース制に改編する。
2005年	5年一貫制博士課程が区分制博士課程（2年の博士前期課程と3年の博士後期課程）に移行 し、社会システム工学専攻と計量ファイナンス・マネジメント専攻は博士前期課程の社 会システム工学専攻と博士後期課程の社会システム・マネジメント専攻に改編される。 社会システム工学専攻は、社会経済システム分野、システム情報数理分野、都市・環境 システム分野、計量ファイナンス・マネジメント分野の4分野で構成されることになる。
	経営・政策科学研究科は、博士課程前期課程の1専攻としてシステム情報工学研究科に編 入され、経営・政策科学専攻となる。同年度の入学者から、修士（ビジネス）を取得す るMBAコースまたは修士（公共政策）を取得するMPPコースのいずれかを選択すること になる。
2006年	社会システム工学専攻が、社会経済システム分野、経営工学分野、都市計画分野の3分 野に再構成される。
2007年	理工学群社会工学類へと改編される。
2013年	社会システム・マネジメント専攻、社会システム工学専攻、経営・政策科学専攻が、1つ の専攻へと改編されることが決まる。
2014年	社会工学専攻（社会工学学位プログラム、サービス工学学位プログラム）が発足する。

I. リサーチユニット

筑波大学リサーチユニット・社会工学域教員代表者(2016/7/1 現在)

課題名(領域)	概要	代表者
サービス組織の経営学(人社系)	サービス提供を本業とする経営組織体の生成・成長・成功メカニズムを、戦略・組織・IT・顧客の組織化・業績評価という5つの焦点から実証的に研究する。	生稻 史彦
サービス資源の最適配分(理工系)	最適化モデル、確率モデル等の数理モデルを用いて、サービス産業および自治体における、人・モノ・情報等のサービス資源の最適な配分方法に関する研究を行い、サービス事業体が提供するサービスの品質とその効率性の向上を目指す。	吉瀬 章子
コンパクトシティ(理工系)	人口減少や環境問題への対応に向け、都市をコンパクト化することの必要性が広く認知されるようになってきた。本研究グループはその研究上、および実務上の課題に応えるため、本学内外の幅広い専門家より構成されている。	谷口 守
都市・地域の経営とデザイン(理工系)	分野横断的・国際的な視点から、従来までの都市計画・地域経営・まちづくり分野等の再構築を図り、都市・地域の経営・デザインに係る新たな方法論を創出するとともに、関連研究・教育の成果の発信・共有に係る国際的拠点を形成することを目的とする。	有田 智一
空間情報科学(複合系)	地理情報科学と都市工学の空間情報解析融合技術を戦略的に活用していくことを目指して、応用志向型、かつ科学的知見の政策立案への戦略的活用を意図した空間解析手法の高度化の追求のための研究活動を行う。	鈴木 勉
都市のOR(複合系)	本ユニットは、都市のORを研究領域とする。都市現象に関する諸課題など社会的・地球規模的な課題解決にオペレーションズ・リサーチ手法を駆使して取り組む研究者に対し、研究発表の機会や議論の場を提供するのである。	大澤 義明
東アジアの伝統的民家・集落と環境(複合系)	日本を含む東アジアにおける伝統的民家・集落・環境の相互関係についての学際的フィールド研究を実施する。現状での共時的な相互関係の理解を出発点として、東アジア全域にわたる木造文化の歴史的展開過程に関する知見を得る。	藤川 昌樹
経済実験・社会シミュレーション(複合系)	相互依存的意思決定状況の下で生じる社会現象をどの程度予測できるかという問いは、研究の健全性を確保するために重要である。本プロジェクトの目的は、経済実験や社会シミュレーションによって、人間の経済行動とそこから生じる社会現象の予測に対するゲーム理論の適用可能性を探ることである。	秋山 英三
価値創造(複合系)	ビッグデータが注目される中、複数の情報を組みあわせて価値を創出するプラットフォームの構築が重要となっている。我々のグループでは、実データを用いた検証に基づき、数理的手法を駆使した価値創造のための新たな方法論の確立を目指す。	繁野 麻衣子

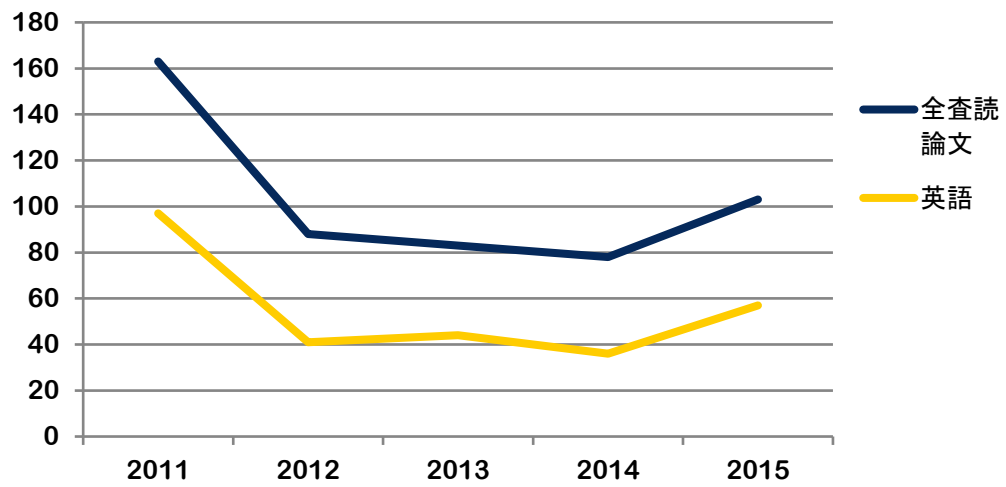
生態系サービス研究(複合系)	研究グループは社会工学域の以下の3名の教員が中心となっている。代表の吉野はリモートセンシングデータ解析による地域の環境評価、特に土地利用分析を専門としている。中核教員の村上は、緑地計画をベースに環境デザインに精通している。また、もう1名の中核教員の甲斐田は、環境の経済価値評価ならびに開発プロジェクト評価を専門としている。本研究グループは、共通の研究対象地に対して、これら3名の教員の研究専門分野と得意な研究ツールを互いにオーバーラップさせることにより、研究対象地における環境問題の解決をはかり、さらに生態系サービス水準を向上させる管理政策の提言が可能である。具体的には、本研究グループは、地域環境から我々が享受している生態系サービスの持続的維持、管理、有効利用を図るため、問題・課題の発見、現状把握、変化過程のモニタリング、様々な視点からの評価、実際的な政策提言を行う課題を研究テーマとして活動する。	吉野 邦彦
マネジメント・サイエンス、経済学、心理学にわたる共同学際研究(複合系)	社会工学域所属の5人の教員によるマネジメント・サイエンス(組織行動論・ファイナンス・マーケティング)および経済学(産業組織論)分野の共同学際研究	金澤 雄一郎
スポーツ産業人育成プログラムの開発と研究	スポーツ・サービス産業活性化及び雇用創出に寄与する起業家的人材の発掘・育成・輩出流動の好循環化・システム化を目的とした産学連携・学問横断型チームであり、実学・実務に根付いた新たな学位プログラム創出を目指すグループである。	岡田 幸彦

筑波大学システム情報系リサーチグループ・社会工学域教員(2016/7/1 現在)

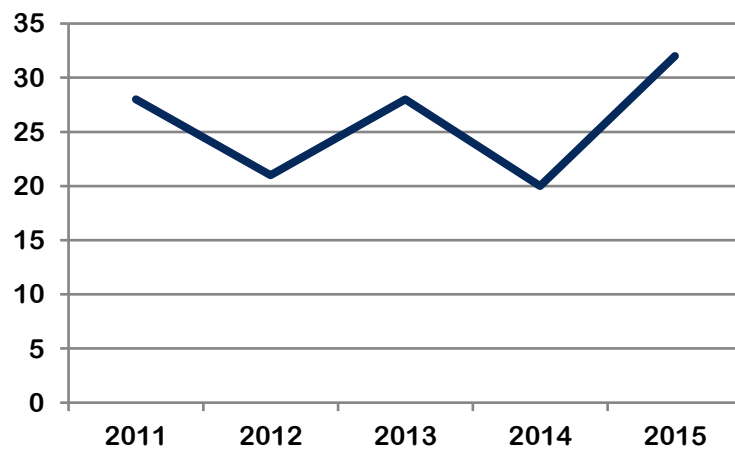
課題名	概要	代表者
マネジメント・サイエンス・経済学・心理学にわたる学際研究	社会工学域所属の4人の教員によるマネジメント・サイエンス(組織行動論・産業組織論・マーケティング)および経済学(ミクロ経済学・産業組織論)分野の共同学際研究	金澤 雄一郎
発展途上国における人的資本形成:計量経済的アプローチ	我々のグループは、途上国が抱える様々な問題、特に貧困家計において阻害されている子供の人的資本形成(教育、健康)の問題に着目し、ミクロ計量経済学的なアプローチによって、解決策を提示することを目標としている。	木島 陽子
持続可能な社会構築のための政策	東日本大震災、ポスト京都等の様々な難題のもと、持続可能な社会構築のための政策設計は喫緊の課題である。当政策には、単なる経済効率性や環境保全の観点を越えた視点が求められている。以上の問題意識から、本リサーチグループにおいては、環境経済学、都市計画、社会基盤計画、交通計画等の立場から、持続可能な社会を実現するための政策について分析を行う。	奥島 真一郎
行動論的・社会的・心理学的アプローチによる社会経済システムの解明	本グループでは、社会的・経済システムに及ぼす様々な要因を、心理・社会実験、調査、シミュレーションなどの多面的なアプローチから明らかにし、従来の研究枠組みを超えた新しい知見や、方法論を構築する。	石井 健一
地域生態系の持続的機能維持のための地域環境政策に関する研究	開発圧力が顕在化している国内外の都市郊外地域を対象にして、その地域社会の持続発展と地域生態系機能の持続的維持を図る地域政策と環境政策を、環境影響評価、地域政策、環境政策の観点から解明する。	吉野 邦彦
企業経営と学術の相互連携を目指す教員協調活動	社会工学域の経営系分野の教員による、従来の縦割り体制を超えた新たな経営科学の研究・教育のあり方を構築する。実務との接触、教員と学生の協同、他大学との交流などを重視する既存の枠にとられない自由な経営学研究活動から新たな知見の発見する。	倉田 久
ビッグデータと地理空間情報を活用した我が国の産業・企業研究	我が国の信用調査会社の企業間取引データや位置などの各種の地理空間情報を活用することで、我が国の様々な産業について、これまで見ることの出来なかった事業所間取引やその階層構造、事業所立地の動向など、経済再生・地方創生・国土強靱化に資する産業・企業研究を行う。	堤 盛人
情報ネットワーク	グループ検査の情報ネットワーク故障診断への応用、デジタル・コンテンツ著作権保護技術の開発、通信多重化のための符号や系列の分析や構成、携帯電話を利用した位置情報システムの開発と構築、無線通信ネットワークにおける効率的な経路決定と資源管理、GPSタクシー配車履歴データの可視化及びその分析、モバイルクラウドにおけるデータ処理手法の開発を行う。	繆 瑩

都市・地域リスクマネジメントと被災地復興支援	都市リスク研究グループは、都市・地域に潜む様々なリスクを対象としてその適切なマネジメントに関する研究を行うとともに、自治体及び市民への政策提言や啓発活動を通じて被災地復興支援など都市・地域の現実問題解決のための社会貢献を果たす。	梅本 通孝
地理情報の解析と視覚化	数理科学, 都市計画, 地理情報システムの専門家が計算幾何学, まちづくり, データマイニング, 最適化などの多様な切り口から地理情報について横断的に情報交換し, 研究手法の社会への普及を図る.	大澤 義明
社会における人間の心的内部構造—理論・実験・シミュレーションによる研究	プレイヤー達がどのようにして経験・記憶から社会構造を理解するかは、ゲーム理論と経済学の基本問題である。この基本問題を理論・実験・シミュレーションなどの様々な観点から研究するのが、本プロジェクトの目的である。	秋山 英三
ミクロ計量経済学的分析手法の開発と応用	本研究は、大規模調査から得られた横断面データおよびパネルデータを用いて個人や家計の選好パラメータを推定する新たなミクロ計量経済学的手法の開発と、日本のデータを用いた実証分析を行うことを目的としている。	大久保 正勝
都市・地域の経営とデザイン	分野横断的・国際的な視点から、従来までの都市計画・地域経営・まちづくり分野等の再構築を図り、都市・地域の経営・デザインに係る新たな方法論を創出するとともに、研究・教育の成果の発信に係る国際的拠点を形成する。	有田 智一

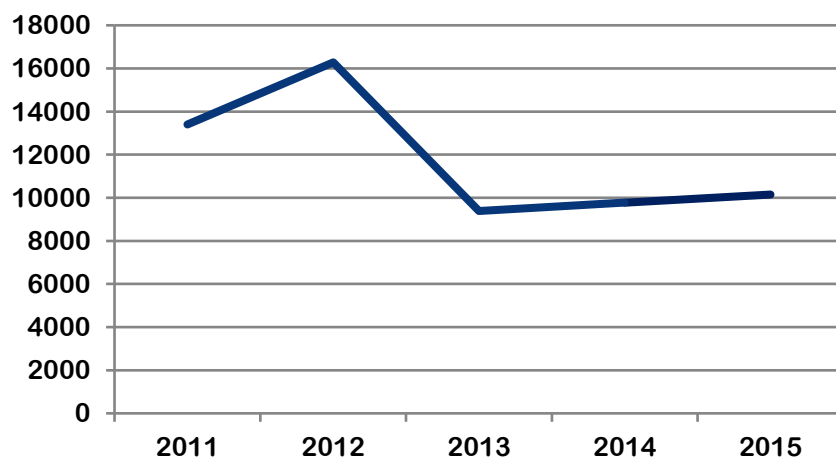
教員過去5年間の論文数



教員過去5年間の著書数



科研費合計額(単位:万円、直接+間接経費、代表者が社工教員)



II. 教員一覽

教授		
氏名	専門分野	研究テーマ
秋山 英三	進化ゲーム論、力学系、エージェントシミュレーション	力学系としてのゲームの研究
有田 智一	地域科学、都市計画	産業集積、都市・地域政策、都市計画制度
石田 東生	都市交通計画、社会基盤施設計画、交通需要予測	公共交通の成立性、自動車保有と世帯交通活動、社会資本整備と合意形成
糸井川 栄一	都市リスク管理	都市防災に関する数理化と都市の災害脆弱性評価
大澤 義明	都市計画、地域科学	都市計画、社会工学、地域科学
金澤 雄一郎	統計学、データ解析	離散選択モデル、共分散構造分析、ノンパラメトリック密度関数・回帰関数推定論、欠損値のある場合の統計解析、生存時間解析
川島 宏一	公共経営、オープンデータ、自治体情報戦略	
岸本 一男	数理工学	デジタル幾何、立地問題と合理的選挙、株価変動解析、フラクタルの解析
イリチュ(佐藤)美佳	多次元データ解析、統計科学	類似度の潜在構造モデルに基づくクラスターリング、ファジィクラスターリング、多相・多元データ理論
繁野 麻衣子	数理計画、組合せ最適化	組合せ最適化、ネットワーク最適化のアルゴリズム開発
鈴木 勉	立地分析、計画リスク、リスク管理型都市公共サービス	立地・輸送におけるリスク分析、都市インフラストラクチャーの維持管理、防災・防犯・救急医療システム評価、都市成長と計画における不確実性
谷口 守	都市環境計画	社会・交通基盤整備に関する研究、都市の環境に関する研究、都市・地域計画制度に関する研究
張 勇兵	分散システム、通信ネットワーク、性能評価	WDM光通信ネットワークにおけるルーティング方式、移動エージェントによる分散処理システムの構築、移動通信システムにおける周波数資源の最適割り当て方式に関する研究
堤 盛人	不動産、空間統計、地理情報科学	不動産価格・資料、空間的自己相関、空間統計学、空間計量経済学、応用都市経済モデル、社会資本ストック推計、プロジェクトファイナンス、建設関連業、無電中化
中村 豊	意思決定理論	測定論の基礎、不確実性下の意思決定
藤川 昌樹	日本建築史・都市史	歴史的市街地の保存、前近代東アジアの居住環境史、日本近世都市・住宅の空間構成に関する研究
繆 瑩	組合せ論、離散数学、符号理論、暗号理論、通信方式	完全差集合族とそのレーダー配列への応用、デジタル指紋符号の構成法および追跡アルゴリズムの開発、ペイジアンネットワークの遺伝子情報解析への適用、組合せデザイン理論を用いた情報通信・情報セキュリティのためのシークエンス構成問題
山本 芳嗣	数理計画	大域最適化、組合せ最適化、アルゴリズムの開発

吉瀬 章子	数理計画、オペレーションズ・リサーチ	錐計画問題に対するアルゴリズムの開発と応用、相補性問題に対する数値的アルゴリズムの開発、データ解析、サービス科学における最適化モデルの適用
吉野 邦彦	リモートセンシング、地域環境工学	生物多様性保全のための環境政策に関する研究、土地被覆・土地利用変化が地域生態系に及ぼす影響に関する研究、衛星リモートセンシングデータを用いた東南アジアにおける熱帯泥炭湿地林の環境評価、リモートセンシングによる湿原の詳細植生図の作成と景観生態学的分析
渡辺 俊	建築計画、都市計画、設計学	ポスト定住化社会における時空を超えたアクティビティの流動化実態に関する実証的研究、拡張現実技術を利用した実空間景観シミュレーションシステムの開発、東アジアの伝統的都市の再開発手法に関する研究、地理情報システムに関する研究、建築CADシステムに関する研究
渡辺 真一郎	組織行動論	職務満足と生活満足の関係、ワーク・ファミリー間相互作用の比較文化的研究、個人－仕事環境間のダイナミック相互作用

准教授		
氏名	専門分野	研究テーマ
雨宮 護	都市計画、犯罪学、空間情報科学、環境心理学	
生稲 史彦	イノベーションマネジメント、技術マネジメント、製品開発論	コンテンツ産業及びサービス産業における開発マネジメント、技術経営、イノベーション・マネジメント
石井 健一	コミュニケーション、情報社会	キャラクターの消費行動、海外における日本アニメの受容、インターネット、携帯電話など通信メディアの利用、日本メディアの海外における普及と消費行動
石川 竜一郎	ゲーム理論、ミクロ経済学	社会構造の認識の形成とその変遷、情報社会的価値、家計内在配分に出産が与える影響
上市 秀雄	意思決定論、認知心理学、社会心理学	犯罪不安に関する認知・感情プロセスのモデル化とその応用、慢性ストレスがヒトの生理心理状態に与える影響とその対処法、意思決定における後悔の時間的变化と回復方法、進路意思決定における認知・感情課程のモデル化、逸脱行動が生起するプロセスと矯正方法に関する研究、環境ホルモンのリスク認知プロセス
梅本 通孝	都市・地域の低頻度リスク対策	住民避難、災害時情報伝達、施設周辺地域の原子力災害対策、災害リスク認知
大久保 正勝	マクロ経済学、計量経済学	異時点間の消費決定に関する実証研究
太田 充	地域科学、都市経済学、都市計画	通信技術革新と都市空間構造の自己組織化
岡田 幸彦	会計学、サービス工学	サービス原価企画の理論的・実証的研究、サービス科学教育のための”知の体系”の創造

岡本 直久	交通計画、観光計画	道路パフォーマンス指標の開発、コンテナ港湾機能配分に関する研究、観光交通の需要分析
奥島 真一郎	環境経済学、政策分析	分解分析手法の開発、モラルモチベーションと環境政策、エネルギー貧困
木島 陽子	経済発展論	発展途上国における貧困がいかんにして削減されるかを現地調査により収集した家計データを用いて実証分析を行う
倉田 久	サプライチェーン・マネジメント、オペレーション管理	サプライチェーン・マネジメントの視点からオペレーションとマーケティングの連携の研究
高橋 正文	派生証券評価、金融リスク管理	デリバティブ等の確率モデル評価、証券価格変動解析、市場及び信用リスクモデルの評価・管理手法の研究
高橋 義明	幸福度研究、行動経済学(消費者問題)、応用計量経済	幸福度概念の各国間比較(インド、タイ、ブータン、フィリピンなどでの現地調査)、制度が個人の意思決定に与える影響(裁判制度など)、地域づくりにおける幸福度指標の意義・課題
谷口 綾子	都市交通計画、態度・行動変容研究、リスク、コミュニケーション	都市交通計画における態度・行動変容研究、モビリティ・マネジメント、リスクコミュニケーション
TURNBULL, Stephen John	ゲーム論、情報経済、実験経済	オープンソース及びフリーソフトウェアのミクロ経済学的分析、コンピュータネットワークの経済学的効果
八森 正泰	離散数学、組合せ論	トポロジー的組合せ論におけるトポロジー的手法、組合せ的構造に関する研究
原田 信行	中小企業経済学、計量経済学	中小企業の動態および政策に関する理論・実証分析、日本経済・産業の実証分析、計量経済学
藤井 さやか	都市計画、まちづくり法制、住環境整備	計画的住宅地の持続可能性に関する研究、ICTを活用したまちづくり・地域活性化に関する研究、市民・事業者による多様な都市計画提案を活用した持続可能な空間形成手法に関する研究、住民組織による居住環境管理の実態と支援方策に関する研究
松原 康介	都市保全計画、都市計画史、地中海都市論	中東・北アフリカ地域の都市保全
村上 暁信	園芸学、造園学	ランドスケープ計画、都市と農村の一体的整備手法、緑地の環境保全機能、都市化と環境変化、気候風土と景観
渡邊 直樹	ゲーム理論、ミクロ経済学	特許ライセンス、入札、投票、交渉

講師		
氏名	専門分野	研究テーマ
有馬 澄佳	コンピューターデバイス、生産管理、オペレーション管理	QCDモデルに基づく装置および生産ラインの設計・運用方法

近藤 文代	時系列解析、統計解析、マーケティングデータ分析	日次POSデータの価格反応モデル分析
-------	-------------------------	--------------------

助教		
氏名	専門分野	研究テーマ
安東 弘泰	数理工学、非線形ダイナミクス	生体システムに倣った複雑ネットワークモデルの構築とその社会システムへの応用
五十嵐 岳	数理統計学	
牛島 光一	都市経済学、健康の経済学、教育の経済学	マイクロデータを用いて子供の人的資本への投資に関する実証研究
甲斐田 直子	環境経済・政策学	環境配慮行動の促進方策、環境自然資源価値の経済評価、環境社会システム分析、環境ガバナンス、国際環境協力
川村 大伸	品質管理、応用統計学	製品およびサービスの品質評価、実験計画法、統計的工程管理
栗野 盛光	マーケットデザイン、実験経済学、ゲーム理論	マッチング市場における中央集権的あるいは分権的制度のデザイン
佐野 幸恵	社会・経済物理学、大規模データ解析	ソーシャルメディアにおける情報拡散、テキスト情報からの感情抽出、社会現象における普遍則
竹原 浩太	金融工学、数理ファイナンス、応用確率解析	金融工学、数理ファイナンス、金融派生証券(デリバティブ)、ファイナンスにおける解析的/数値的手法、確率解析
山本 幸子	建築計画、地域計画	建築ストックの管理・活用手法の検討、地域施設計画、都市・農村交流によるまちづくりに関する研究

III. 教員別の教育研究業績

氏 名	秋山 英三	職 名	教授
専攻（博士後期課程）			
専攻（博士前期課程）			
担当学類	社会工学類		
研究分野	進化ゲーム理論、エージェント・ベースド・シミュレーション		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類

社会工学実習／プログラミング実習／進化ゲーム理論

大学院前期課程

社会シミュレーション

◆ 指導学生数：

社会工学類 3人／社会システム工学専攻 2人／社会工学学位 P（前期）3人／社会システムマネジメント専攻 3人／社会工学学位 P（後期）1人

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

- 基盤研究（C） 人間の認知・行動と「金融資産市場の定式化された事実」：シミュレーションと行動実験（代表）
- 基盤研究（A） 制度・認識・社会正義の経済学の構築に向けて（代表者：金子守）
- 基盤研究（A） 老朽化する都市インフラの選択集中整備に関する理論的、実証的研究（代表者：大澤）
- 基盤研究（B） 帰納的学習による意思決定理論の構築と資産取引実験への応用（代表者：石川竜一郎）
- 基盤研究（B） 成人病化する都市の救命学：その診断・予防・リハビリシステムの体系的構築（代表者：谷口守）

◆ 著書・論文等：

- ・ Iwata, M., & Akiyama, E. Heterogeneity of link weight and the evolution of cooperation. Physica A, 448, 15 224-234, April 2016. 査読有
<http://doi.org/10.1016/j.physa.2015.12.047>
- ・ Akiyama, E., Hanaki, N. and Ishikawa, R., It is not just confusion! Strategic

uncertainty in an experimental asset market, Economic Journal, (forthcoming).
査読有

◆ 学会発表等：

- "Diversity in cognitive ability enlarges mispricing," International Conference on Socio-economic systems with ICT and Networks, 27 March, 2016, Tokyo, Japan.
with Hanaki, H., Funaki, Y., Ishikwawa, R.
- "Diversity in cognitive ability enlarges mispricing," Consciousness and Intention in Economics and Philosophy, Kyoto Sangyo University, Japan, December 11, 2015.
with Hanaki, H., Funaki, Y., Ishikwawa, R.
- "How Do Experienced Traders Respond to in Ows of Inexperienced traders? An Experimental Analysis," Kyoto Workshop on Experimental Economics 2015, 京都大学, 2015/07/13, 2015.
with Hanaki, H., Funaki, Y., Ishikwawa, R.
- "How Do Experienced Traders Respond to in Ows of Inexperienced traders? An Experimental Analysis," Computational Economics and Finance (CEF2015), Taiwan, Taipin, June 21, 2015.
with Hanaki, H., Funaki, Y., Ishikwawa, R.

◆ その他：

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
 - 全学 総合科目編成部会委員
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
 - 社会工学専攻 論文委員会 委員長
 - 社会工学類 カリキュラム委員会 委員
 - 社会工学類 クラス担任
 - 社会工学類 卒業論文梗概集編集委員

4. 学外の社会貢献

- ◆ 学会
 - ネットワークが創発する知能研究会 2015 プログラム委員
 - JAWS2015 (Joint Agent Workshops and Symposium 2015) プログラム委員

氏 名	有田 智一	職 名	教授
専攻（博士後期課程）	社会工学専攻		
専攻（博士前期課程）	社会工学専攻		
担当学類	社会工学類		
研究分野	都市・地域政策，都市計画制度、産業集積		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

社会工学類：社会工学実習、都市と地域の経営行政論、都市計画マスタープラン策定実習、現代まちづくりの理論と実践、都市・地域・環境を巡るⅡ（総合科目）、建築関連法規（世話人教員）

社会工学学位プログラム：制度・政策決定論、都市開発プロジェクトマネジメント/地域経営論、社会工学ワークショップ、社会工学ファシリテーター（国際交流ワークショップ）、美しい国土づくりへの挑戦Ⅰ（世話人教員）

◆ 指導学生数：

社会工学類 3 名

社会工学専攻社会工学学位プログラム 3 名

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

・科学研究費補助金基盤研究 A「老朽化する都市インフラの選択集中整備に関する理論・実証研究」（研究分担者）

・不動産流通経営協会研究助成「公民連携を通じた公的不動産の活用を促進する方策に関する研究」（研究代表者）

◆ 著書・論文等：

・糸井川 栄一、有田 智一、梅本 通孝 [他]、「東日本大震災後の沿岸観光地における津波被災リスク軽減策と観光業再生のあり方に関する研究：茨城県大洗町を事例に(概要)（都市再生研究助成事業(平成 25・26 年度助成)最終報告)」Urban study 60, 36-55, 2015-06
民間都市開発推進機構都市研究センター

・北崎朋希、有田智一、「インフラ整備を目的とした容積売却による資金調達手法の導入過程と活用実態:ニューヨーク市ハドソンヤード特別地区における DIB を対象として」

都市計画論文集 50(3), 898-903, 2015

・ 田野井雄吾、有田智一、糸井川栄一、梅本通孝、太田尚孝、「公有地・民有地の一体的な液状化対策事業の実態と課題:一東日本大震災液状化被災 12 自治体を対象として」都市計画論文集 50(3), 394-401, 2015

・ Niitani Ken, Fujii Sayaka ,Arita Tomokazu, “Location and Development Control of Wind Farms in Japan”, Journal of Sustainable Urbanization and Regeneration, 2015-9, pp.113-121

◆ 学会発表等：

・ 北崎朋希、有田智一、「インフラ整備を目的とした容積売却による資金調達手法の導入過程と活用実態:ニューヨーク市ハドソンヤード特別地区における DIB を対象として」都市計画論文集 50(3), 898-903, 2015

・ 田野井雄吾、有田智一、糸井川栄一、梅本通孝、太田尚孝、「公有地・民有地の一体的な液状化対策事業の実態と課題:一東日本大震災液状化被災 12 自治体を対象として」都市計画論文集 50(3), 394-401, 2015

◆ その他：

・ 日本建築学会建築法制委員会用途規制再構築検討小委員会公開研究会、「日本の用途規制制度を斬る」、コーディネーター、2015 年 5 月 14 日

・ 講演「公民協働による都市開発手法の発展に向けて」一般社団法人不動産協会、不動産協会会議室、2015 年 8 月 6 日

・ 「日本建築学会建築法制部門研究協議会：社会変化に対応しうる用途規制再構築の方向性ー日本型条件付用途許可制度の可能性ー」、司会、建築法制委員会用途規制再構築検討小委員会、2015 年 9 月 4 日

・ 日本都市計画学会学術研究論文発表会 WS「都市計画史はニュータウンに何を見ているのか」パネリスト、11 月 7 日、宮崎シーガイア

・ 講演「第 12 回都市整備局業務体験発表会（平成 27 年度）記念講演：社会経済変化に対応した今後の土地利用規制・都市開発の新たな方向性についてー公民協議型の手法の発

展に向けてー」平成 27 年 11 月 13 日（金）、東京都庁第一本庁舎

・茨城県民大学講演「筑波研究学園都市の形成と現在」2015 年 11 月 14 日、土浦市

・「規制改革会議 第 9 回地域活性化ワーキンググループ会合」有識者ヒアリング担当、
2016 年 3 月 7 日、内閣府規制改革推進室

・Tokyo Public Space Lecture Series, “Privately Owned Public Spaces: The Tokyo Experiences,” 2016 年 3 月 19 日、東京大学

・特別講義、「Ecole des Ponts, Mastère AMUR_ Conference in Tokyo」2016 年 3 月 22 日、
東京

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
全学つくば連携推進室室員
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
社会工学類カリキュラム委員長
建築士受験資格運営委員会委員長
社会工学類学生担当委員
社会工学コモンズ検討委員会委員

4. 学外の社会貢献

- ◆ 東京都住宅政策審議会委員
- ◆ 東京都住宅政策審議会企画部会委員
- ◆ 東京都住宅政策審議会マンション政策部会委員
- ◆ 東京都マンション共同化建替えモデル事業選定委員会委員長
- ◆ 東京都建築審査会委員
- ◆ 東京都江戸川区都市計画審議会委員
- ◆ 東京都墨田区基本計画等有識者懇談会座長
- ◆ 墨田まちづくり公社「木造密集地域の建替え促進調査」検討委員会座長
- ◆ 川崎市建築等紛争調停委員会委員
- ◆ 埼玉県八潮市まちづくり・景観推進会議委員
- ◆ 千葉県松戸市建築審査会委員
- ◆ 茨城県守谷市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議座長

- ◆ 茨城県土浦市行財政改革推進委員会委員長
- ◆ 茨城県土浦市公共施設等総合管理計画策定委員会委員長
- ◆ 茨城県土浦市空き家等審議会委員長
- ◆ 茨城県古河市空き家等審議会委員長
- ◆ 茨城県神栖市総合計画進捗状況評価会委員
- ◆ 茨城県水戸市住生活基本計画検討専門委員
- ◆ 茨城県桜川市都市計画マスタープラン策定委員会委員
- ◆ 茨城県桜川市まち・ひと・しごと創生総合戦略有識者会議
- ◆ 中部圏社会経済研究所地域ガバナンス研究会委員
- ◆ 高蔵寺ニュータウン未来プラン策定検討委員会委員
- ◆ 「これからの都市開発・再開発についての研究会：大都市部会」委員（全国市街地再開発協会、株式会社日本建築住宅センター）

- ◆ 日本建築学会建築法制委員会委員
- ◆ 日本建築学会建築法制委員会用途規制再構築検討小委員会主査
- ◆ 日本建築学会都市計画委員会創造的地域文脈小委員会
- ◆ 日本建築学会都市計画委員会創造的地域文脈小委員会 20 世紀計画都市の比較都市計画史 WG 主査
- ◆ 都市住宅学会関東支部常議員
- ◆ 都市住宅学会学術委員会委員
- ◆ 都市住宅学会学会賞委員会委員
- ◆ 応用地域学会学術委員会委員
- ◆ 都市計画家協会都市プランナー職能研究会委員
- ◆ 財団法人再開発コーディネーター協会試験講習委員会委員

氏 名	安東弘泰	職 名	助教
専攻（博士後期課程）			
専攻（博士前期課程）			
担当学類	社会工学類		
研究分野	生体システムに倣った複雑ネットワークモデルの構築とその社会システムへの応用		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類 情報リテラシー・演習／情報技術実験／社会工学実習／社会工学専門英語／シミュレーション

◆ 指導学生数：

卒論生 1 名

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

【受託研究】 SIP 次世代パワーエレクトロニクス「SiC パワーデバイス応用による低容量小型パワー集積回路開発およびパワープロセッシング技術の研究開発」（代表機関：京都大学）（再委託）

【科研費】 2 型糖尿病における人工的膵臓刺激装置設計のための数理モデル研究,[代表] 挑戦的萌芽研究

◆ 著書・論文等：

【1】 E. Estrada, E. Vargas-Estrada, H. Ando, Communicability angles reveal critical edges for network consensus dynamics, PHYSICAL REVIEW E/92(5)/pp. 052809-1-052809-10, 2015

【2】 H. Ando, K. Fujiwara, Numerical Analysis of Bursting Activity in Isolated Pancreatic β -cell Model, NOLTA/Vol. 7(2), pp. 217-225, 2016

【3】 H. Ando, M. U. Kobayashi, A Feedback Control of Fluctuations in Simple Molecular Dynamics, submitted to the 4th IFAC Conference on Analysis and Control of Chaotic Systems, CHAOS 2015, pp. 262-266.

【4】 H. Ando, K. Fujiwara, Influence of ionic currents on a simple model for pancreatic beta cells, in Proc. of 26th Symposium on nonlinear theory and its applications (NOLTA2015), pp. 26-29.

◆ 学会発表等：

【1】小林幹、安東弘泰、時間遅れフィードバック法を用いたナノデバイスの揺らぎの制御、第58回自動制御連合講演会、システム制御情報学会、2E2-3、神戸、2015年11月14～15日.

【2】安東弘泰、小林幹：時間遅れフィードバックによる確率システムの制御、日本物理学会 2016年年次大会、仙台、2016年3月20日

【3】小林幹、安東弘泰、確率過程制御のための時間遅れフィードバック法、日本物理学会 2016年年次大会、仙台、2016年3月22日

◆ その他：

【招待講演】安東弘泰、Communicability 関数によるネットワーク上のダイナミクス解析について、complex network winter session 2016、水戸、2016年3月9日

3. 学内運営

◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：

なし

◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：

コンピュータ委員（社会工学類、社会工学専攻）

入試実施委員会（社会工学類）

4. 学外の社会貢献

◆ 高大連携

米軍子弟への研究室紹介

氏 名	五十嵐 岳	職 名	助教
専攻（博士後期課程）			
専攻（博士前期課程）			
担当学類	社会工学類		
研究分野	統計科学		

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：
学類： 計量経済学/統計 II
大学院： 統計分析
- ◆ 指導学生数：
社会工学類 0 人/社会工学学位 P（前期） 0 人

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：
科学研究費 研究活動スタート支援「境界問題のないノンパラメトリックな多次元密度推定とその応用について」（代表）
- ◆ 著書・論文等：
Igarashi, Gaku (2016) “Bias reductions for beta kernel estimation”, Journal of Nonparametric Statistics, 28, 1-30.
- ◆ 学会発表等：
2015 年度統計関連学会連合大会, 岡山大学, 2015 年 9 月.
日本数学会 2016 年度年会, 筑波大学, 2016 年 3 月.
研究集会「第 17 回ノンパラメトリック統計解析とベイズ統計」, 慶應義塾大学, 2016 年 3 月
- ◆ その他：

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
社会工学類 3 年クラス担任, 社会工学専攻広報委員

4. 学外の社会貢献

- ◆ 各種活動

氏 名	生稲史彦	職 名	准教授
専攻（博士後期課程）	社会システム・マネジメント		
専攻（博士前期課程）	社会システム工学		
担当学類	社会工学類		
研究分野	経営学、技術経営(MOT)、イノベーション		

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：
 - 学類 経営学、マネジメント実習、フレッシュマンセミナー
 - 大学院 技術経営、ビジネス戦略—理論と実践
- ◆ 指導学生数：
 - 学類 2 名
 - 大学院 10 名

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：
 - 科学研究費補助金（基盤研究(C)）「IT ベース・イノベーションを実現する企業経営の実証研究」（課題番号：26380498）（研究代表者）
 - 科学研究費補助金（基盤研究(B)）「京都ものづくり企業のソーシャルキャピタルとブランド生成の調査分析」（課題番号：26285093）（研究分担者）
 - グローバルビジネスリサーチセンター コンテンツ産業研究会幹事
- ◆ 著書・論文等：
 - Ikuine, F. and Hara, Y. (2015). Policy Making Process for the creative industry: Anime Mirai case by the Agency for Cultural Affairs. *Transactions of the Academic Association for Organizational Science*, 4(1), 52-58.
http://doi.org/10.11207/taaos.4.1_52
 - 原良憲, 西野成昭, 生稲史彦(2015)「サービス・ケイパビリティ SIG」『サービスソロジー』2 巻 2 号, pp.66-71, 2015.
 - 稲水伸行, 生稲史彦, 佐藤秀典(2016)「価値共創プロセスとして営業活動—Eigyo as a value co-creation process」『知識共創』, Vol. 6. (forthcoming) <http://www.jaist.ac.jp/fokcs/>
 - 生稲史彦(2016)「開發生産性のディレンマの先にあるもの—産業レベル分析の限界と課題—」『進化経済学会予稿集』
<http://webpark1746.sakura.ne.jp/jafee2015/pdf/IkuineFumihiko.pdf>
- ◆ 学会発表等：

生稲史彦, 原泰史(2015)「コンテンツ産業の政策制度設計—文化庁「アニメミライ」事業の分析を通じて—」組織学会研究発表大会, 2015 年 6 月 20 日. 報告要旨 pp.113-116. 一橋大学.

生稲史彦(2016)「コンテンツにおけるイノベーションとクリエイティビティ—ゲームソフトの実証研究から—」第 3 回産業・企業の競争力に関する研究会, 2016 年 1 月 8 日, 経済産業省.

稲水伸行, 生稲史彦, 佐藤秀典(2016)「価値共創プロセスとして営業活動—Eigyō as a value co-creation process」北陸先端科学技術大学院大学『第 6 回知識共創フォーラム』インタラクティブ・セッション, 2016 年 3 月 12 日.

清水洋, 江藤学, 木村めぐみ, 生稲史彦(2016)「遊びからビジネスへ: 日本とアメリカにおけるゲームの産業化 (From Fun to Business: the industrialization of computer games)」第 2 回京都ゲームカンファレンス『遊びとイノベーション—ゲーム産業史への道程—』2016 年 3 月 17 日, 立命館大学.

◆ その他:

生稲史彦, 黄巍(2016)「日本游戏产业概况及游戏开发现状(日本のゲーム産業とユーザの現状)」完美世界企業内セミナー, 2016 年 3 月 8 日, 北京完美世界開発センター.

生稲史彦, 黄巍(2016)「日本游戏产业概况及游戏开发现状(日本のゲーム産業とユーザの現状)」Freejoy Technology セミナー, 2016 年 3 月 9 日, 北京 Freejoy Technology 本社.

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献:
企画室委員
- ◆ 専攻組織の業務への貢献(委員会等):
社会工学類 1 年生クラス担任
社会システム情報研究科 修士論文委員

4. 学外の社会貢献

- ◆ 各種活動
非常勤講師
東京大学大学院経済学研究科 非常勤講師 (ICT マネジメント II)

氏 名	イリチュ（佐藤）美佳	職 名	教授
専攻（博士後期課程）			
専攻（博士前期課程）			
担当学類	社会工学類		
研究分野	データマイニング，統計科学		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類 数理統計学／統計 I/ 卒業研究

大学院前期課程 データマイニング/リスク工学前期特別演習 I/リスク工学前期特別演習 II/
リスク工学前期特別研究 I/リスク工学前期特別研究 II/リスク工学グループ演習（分担）/社会
システム工学特別演習 I（分担）/社会システム工学特別演習 II/社会システム工学特別研究/特
定課題研究（分担）

大学院後期課程 リスク工学後期特別演習（分担）/リスク工学後期特別研究

◆ 指導学生数：

社会工学類 5人 / リスク工学専攻博士前期課程 5人

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

日本学術振興会科学研究費補助金(基盤研究(C))

「多次元クラスター尺度構成法によるビックデータ解析とその社会的応用」（代表）

日本学術振興会科学研究費補助金(基盤研究(B))

「高次元データの理論と方法論の総合的研究」（分担）

◆ 著書・論文等：

- (1) M. Sato-Ilic, Multidimensional Joint Scale and Cluster Analysis, Procedia Computer Science, Elsevier, Vol. 61, pp. 11-17, 2015
- (2) J. Chen, M. Sato-Ilic, A Variable Selection Method Considering Cluster Loading for Labeled High Dimension Low Sample Size Data, Procedia Computer Science, Elsevier, Vol. 60, pp. 850-859, 2015
- (3) M. Sato-Ilic, Fuzzy Data Analysis (Chapter 8), Computational Intelligence - Volume I, EOLSS Publications/United Nations Education, Scientific and Cultural Organization, H. Ishibuchi (ed.), 2015
- (4) M. Sato-Ilic, Fuzzy Correlational Direction Multidimensional Scaling, Soft

Computing Applications Volume 2, V. Emilia Balas, L. C. Jain, and B. Kovacevic (eds.), Springer, 2016

- (5) T. Yamamoto, M. Sato-Ilic, On A Variable Selection Method based on the Relationship between Discrimination Information and Principal Components, 31st Fuzzy System Symposium, pp. 75-80, 2015

◆ 学会発表等：

招待講演

- (1) M. Sato-Ilic, A Fuzzy Cluster Scaling Model, 8th International Conference of the European Research Consortium for Informatics and Mathematics Working Group on Computational and Methodological Statistics, December 14, 2015, London (UK)
- (2) M. Sato-Ilic, Clustering-based Models for High-dimensional Data, The 9th Conference of the Asian Regional Section of the International Association for Statistical Computing, December 17, 2015, Singapore
- (3) イリチュ（佐藤）美佳, Cluster-Scaled Analysis and Its Application for High-dimensional Data, 第 39 回日本知能情報ファジィ学会東海支部研究会, 2015 年 8 月 10 日
- (4) イリチュ（佐藤）美佳, 高次元小標本データの変数選択法, 第 40 回日本知能情報ファジィ学会東海支部研究会, 2016 年 2 月 11 日

研究会発表

- (1) J. Chen, M. Sato-Ilic, A Model of Cluster Loading and Its Application for a Variable Selection of High Dimension Low Sample Size Data, 日本分類学会第 34 回大会, pp. 6-8, 2016
- (2) 辻 陽介, イリチュ 美佳, 判定式に基づくカーネル k-means 法, 日本分類学会第 34 回大会, pp. 9-11, 2016
- (3) 山本 智基, イリチュ 美佳, 外的基準を持つデータの主成分に基づく変数選択法, 日本分類学会第 34 回大会, pp. 18-20, 2016
- (4) 吉元 翔汰, イリチュ 美佳, 離島における分類構造を利用した人口減少に関する解析, 日本分類学会第 34 回大会, pp. 31-33, 2016

◆ その他：

1st Runner-Up Theoretical Paper Award, M. Sato-Ilic, Multidimensional Joint Scale and Cluster Analysis, Complex Adaptive Systems 2015 Conference (CAS2015), San Jose, CA, USA, 2015 年 11 月 3 日

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
 - ・システム情報工学研究科企画室員
 - ・システム情報工学研究科学務・カリキュラム委員会委員
 - ・セクハラ筑波キャンパス相談員
 - ・留学生対応委員（留学生連絡協議会委員、外国人の学群科目等履修生出願に係る面接員等）
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
 - ・リスク工学専攻カリキュラム会委員長
 - ・リスク工学専攻総務委員会委員
 - ・リスク工学専攻 GP 達成度評価委員会委員
 - ・社会工学類カリキュラム委員会委員

4. 学外の社会貢献

海外業務：

- ・ Editor in Chief of International Journal of Knowledge Engineering and Soft Data Paradigms, Published by Inderscience Publishers, UK
- ・ Regional Editor of International Journal on Intelligent Decision Technologies, IOS Press, Netherlands
- ・ Associate Editor of Neurocomputing, Elsevier, Netherlands
- ・ Associate Editor of Information Sciences, Elsevier, Netherlands
- ・ Member of Editorial Board for Source Code for Biology and Medicine, BioMed Central, UK
- ・ Member of Editorial Board for the International Journal of Hybrid Intelligent Systems, IOS press, Netherlands
- ・ Member of the Fuzzy Systems Technical Committee (FSTC) of the IEEE Computational Intelligence Society
- ・ IEEE Senior Member
- ・ Member of IEEE Women in Computational Intelligence Committee
- ・ Examiner of Ph.D. Thesis at the University of South Australia

その他：

- ・ 日本知能情報ファジィ学会評議員
- ・ 日本分類学会幹事・運営委員

氏 名	上市 秀雄	職 名	准教授
専攻（博士後期課程）			
専攻（博士前期課程）			
担当学類	社会工学類（専任）		
研究分野	意思決定論，認知心理学，社会心理学		

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：
 - 学類 経済行動論／社会経済システム情報実習／社会調査実習
 - 大学院 消費者心理分析
- ◆ 指導学生数：
 - 社会工学類 0名／社会工学専攻博士前期課程 2名

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：
 - 感情，特に後悔が意思決定に及ぼす影響の検討、裁判員制度参加意向を規定する要因の分析、更正支援活動を促進する要因の解明、環境保全行動など
- ◆ 著書・論文等：
 1. 上市秀雄・楠見孝（2015）. 裁判員参加意向を規定する要因および意思決定プロセスの差異：制度施行前後の比較. 認知科学, **3**, 326-340.
- ◆ 学会発表等：
 1. 上市秀雄・楠見孝（2015）. 裁判員参加意向と死刑制度賛否に及ぼす知識，態度，能力認知の影響：裁判員裁判制度の認知（2）. 日本心理学会第79回大会発表論文集. 2PM-096.
 2. 楠見孝・上市秀雄（2015）. 裁判員裁判における裁判官，自己，他者の能力認知の規定要因：裁判員裁判制度の認知（1）. 日本心理学会第79回大会発表論文集. 2PM-095.
 3. 讃井知・上市秀雄（2015）. 更生支援活動の受け入れ態度に影響を及ぼす感情・認知要因. 日本心理学会第79回大会発表論文集. 2AM-053.
 4. 室町祐輔・上市秀雄（2015）. メタ認知尺度作成の試み. 日本心理学会第79回大会発表論文集. 1PM-101.
- ◆ その他：

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
 - 全学教育社会連携推進室委員，AC 専門委員
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
 - 大学院入試実施委員，大学院広報委員

4. 学外の社会貢献

- ◆ 各種活動

- ◆ 学術論文・国際会議査読

International Congress of Psychology 2016

認知科学

社会心理学研究

氏 名	牛島 光一	職 名	助教
専攻（博士後期課程）			
専攻（博士前期課程）			
担当学類	社会工学類		
研究分野	教育の経済学、健康の経済学、応用ミクロ計量経済学、都市経済学		

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：統計Ⅱ、都市経済学、地域科学演習、公共政策論
- ◆ 指導学生数：主指導（学類）1名、副指導（博士）3名（修士）5名

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：
 - 【1】 公益財団法人村田財団研究助成（親の教育水準の向上による子供の健康格差縮
代表者：牛島光一、2015-07～2016-06、100万円）
- ◆ 著書・論文等：
 - 【1】 K. Ushijima: The Impact of a High-speed Railway on Residential Land Prices, University of Tsukuba, Discussion Paper Series, No.1344, 2016-3. （Y. Kanasugi との共著、海外の学術誌へ投稿中）
 - 【2】 牛島光一：大気環境が地価に与える影響—東京都特別区の地価データを用いた検証—、『用地域学研究』2016年号に掲載予定。（姜哲敏、太田充との共著）
 - 【3】 牛島光一：高速鉄道の整備が居住地価格に与えた影響、CSIS DAYS 2015 全国共同利用研究発表大会 概要集。（金杉洋との共著）
- ◆ 学会発表等：
 - 【1】「日本における排気ガス規制の外部効果についてなど」、第10回「実証的なモラル・サイエンス」研究集会、於 日本福祉大学東海キャンパス、2016年3月10日。
 - 【2】“The Impact of High Speed Railway on Residential Land Price”、Urban Economics Workshop、於 東京大学本郷キャンパス、2106年1月9日。
 - 【3】“The Impact of High Speed Railway on Residential Land Price”、法政大学経済学部研究会、於 法政大学市ヶ谷キャンパス、2015年8月29日。
- ◆ その他：

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
 - 修士論文委員
 - 数学プレースメントテスト委員

4. 学外の社会貢献

◆ 各種活動

<依頼講演>

【1】筑波大学雙峰祭本部企画「筑波塾」:『統計学入門～統計学でできること～』、2015年11月8日。

<高大連携活動>

【1】埼玉県立不動岡高校、FreeEducation による特別講義（SSH 企画）、2015年07月25日。

氏 名	梅本 通孝	職 名	准教授
専攻（博士後期課程）			
専攻（博士前期課程）			
担当学類	社会工学類		
研究分野	都市地域の低頻度リスク対策		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類： 社会工学実習/都市防災計画/都市計画事例講義および実習/地域科学演習

大学院： 都市構造システム論/都市リスク分析演習/リスク工学基礎/
リスクマネジメント序論

◆ 指導学生数：

社会工学類 3人/リスク工学専攻(前期) 2人

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

科学研究費（特別研究促進費）「平成 27 年 9 月関東・東北豪雨による災害の総合研究」（研究分担者）

科学研究費（基盤研究(C)）「沿岸地の防災と観光の両立に向けた住民・一時来訪者の津波避難のリスク評価と改善方策」（研究代表者）

HSEリスク・シーキューブ 東海村による地域社会と原子力に関する社会科学研究支援事業受託研究「東海村の自主防災活動をより活発化させるためにはどうしたら良いか？」（研究代表者）

公益財団法人旭硝子財団研究助成「液状化に関わる市街地整備のリスクマネジメントと都市計画技術のあり方に関する研究」（研究代表者）

◆ 著書・論文等：

野澤駿平，糸井川栄一，梅本通孝，太田尚孝：東日本大震災後の観光業復興のための取組み効果に関する研究—茨城県大洗町の宿泊施設を対象として—，地域安全学会論文集，No.27, pp.13-23, 2015.11.

田野井雄吾，有田智一，糸井川栄一，梅本通孝，太田尚孝：公有地・民有地の一体的な液状化対策事業の実態と課題—東日本大震災液状化被災 12 自治体を対象として—，都市計画論文集，Vol.50, No.3, 日本都市計画学会, pp.394-401, 2015.11.

土方孝将，雨宮護，糸井川栄一，梅本通孝，太田尚孝：土方地方都市における住宅侵入盗被害と地区特性との関連市街地と手口の特徴に着目して，都市計画論文集，Vol.50, No.3, 日本都市計画学会, pp.824-831, 2015.11.

梅本通孝, 糸井川栄一, 太田尚孝, 戸田大暉: 震災後に仮設商店街が果たした役割に関する研究—いわき市浜風商店街を対象として—, 地域安全学会東日本大震災特別論文集, No.4, pp.79-84, 2015.

糸井川栄一, 梅本通孝, 太田尚孝: 津波避難訓練結果に基づく津波避難行動診断—茨城県神栖市を対象として—, 地域安全学会東日本大震災特別論文集, No.4, pp.9-14, 2015.

梅本通孝: 液状化被害による生活支障と震災後の転居/居住継続の要因, 八木勇治・大澤義明編, 巨大地震による複合災害—発生メカニズム・被害・都市や地域の復興—, 筑波大学出版会, pp.167-178, 2015.11

◆ 学会発表等:

梅本通孝, 糸井川栄一, 太田尚孝, 戸田大暉: 震災後に仮設商店街が果たした役割に関する研究—いわき市浜風商店街を対象として—, 第4回地域安全学会東日本大震災連続ワークショップ in 気仙沼, 2015.10.3

◆ その他:

3. 学内運営

◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献:

システム情報工学研究科広報委員会 委員

◆ 専攻組織の業務への貢献 (委員会等):

リスク工学専攻 GP 達成度評価実施委員会 委員

リスク工学専攻 GP 達成度評価実施委員会 コアメンバー

リスク工学専攻 カリキュラム委員会 委員

リスク工学専攻 広報委員会 委員長

リスク工学専攻 将来戦略構想検討 WG メンバー

4. 学外の社会貢献

◆ 学会活動

地域安全学会 理事

日本自然災害学会編集委員会 委員

日本建築学会防火委員会広域避難小委員会 委員

地域安全学会論文集 査読者

日本建築学会論文集 査読者

日本都市計画学会論文集 査読者

日本地震工学会論文集 査読者

◆ 学外から委嘱された委員

常総市復興ビジョン懇話会 委員

常総市復興計画策定委員会 委員

常総市水害対策検証委員会 委員(委員長代理)

東京消防庁火災予防審議会 委員

東京消防庁火災予防審議会地震対策部会 委員

東京消防庁火災予防審議会地震対策部会小部会 委員

東京消防庁火災予防審議会防火防災訓練手法に関する調査研究委員会 委員

茨城県稲敷市都市計画審議会 会長

茨城県守谷市行政改革推進委員会 委員

茨城県土浦市消防本部署所再編検討委員会 委員

茨城県県民大学講座 講師

福島県いわき市原子力避難計画策定 アドバイザー

◆ 講演等

梅本通孝:洪水を含めた自然災害に対処するために, 茨城県震災復興シンポジウム 自然災害とどう付き合うのかー筑波大学と地域の連携ー, 水戸市, 2016.1.14

梅本通孝:人々の防災活動に影響を与えているものとは?, 巨大地震と茨城～今後の防災を学ぶ～, 平成 27 年度茨城県県南生涯学習センター県民大学講座, 土浦市, 2015.10.16

梅本通孝:人々の災害時の行動特性と課題とは?, 巨大地震と茨城～今後の防災を学ぶ～, 平成 27 年度茨城県県南生涯学習センター県民大学講座, 土浦市, 2015.10.9

氏 名	大澤 義明	職 名	教授
専攻（博士後期課程）			
専攻（博士前期課程）			
担当学類	社会工学類		
研究分野	都市計画，地域科学，社会工学		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類：微積分 I／都市解析／都市計画マスタープラン策定実習／都市計画事例講義および実習／つくばの景観を考える／都市・地域・環境を探る I, II, III／巨大地震による複合災害

大学院：都市地域解析学／サービス工学特別講義Ⅳ／公共インフラ設計／エンパワーメント情報学プログラムシステムデザイン／エンパワーメント情報学プログラムアドバンストチュートリアル演習

◆ 指導学生数：社会工学類 3人／社会工学専攻（前期）6人／社会システム・マネジメント専攻 2人／社会工学専攻（後期）1人

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

[1]老朽化する都市インフラの選択集中整備に関する理論・実証研究．基盤研究A．研究代表者．

[2]公共施設配置における住民投票の意義—投票制度は経済効率をどの程度悪化させるのか—．挑戦的萌芽研究．研究代表者．

[3]戦略的イノベーション創造プログラム・道路インフラマネジメントサイクルの展開と国内外への実装を目指した統括的研究・提案するアセットマネジメントシステムの地方自治体への実装研究，科学技術振興機構．研究開発責任者．

[4]まちなか再生事業に関する研究．共同研究（津別町）．研究代表者．

[5]次世代社会システムとモビリティの新価値研究．共同研究（トヨタ自動車）．研究代表者．

◆ 著書・論文等：

[1]川岸卓司，川口明子，小林隆史，大澤義明（2015）：訪日外国人の訪問地集中指標と一極集中是正に向けた分析～北海道の宿泊地を対象として～．*日本計画行政学会*，38(4)，pp. 50-59.

[2]張心笛，石井儀光，雨宮護，大澤義明（2015）：緑視率から見た街路樹削減効果に関する数理的考察，*都市計画論文集*，50，pp. 273-278.

[3]大澤義明，小林隆史，太田尚孝(2015)：被災地自体での課題，(八木勇治・大澤義明 編著)，巨大地震による複合災害—発生メカニズム・被害・都市や地域の復興—，筑波大学出版会．pp. 181-204.

◆ 学会発表等：

- [1] 小林隆史, 川岸卓司, 川口明子, 大澤義明 (2015)：訪日外国人の季節別訪問地多様性の分析～北海道を対象として～. オペレーションズ・リサーチ学会 2015 年秋季研究発表会, pp.56-57.
- [2] 竹屋裕樹, 多田賀寛, 渡部洋介, 大澤義明, 吉瀬章子 (2015)：筑波大学高大連携シンポジウム 2015ー若い世代による地方創生ー. オペレーションズ・リサーチ, (61) 1, pp. 48-51.
- [3] 大澤義明 (2015)：「地方創生☆政策アイデアコンテスト 2015」地方創生担当大臣賞受賞報告. オペレーションズ・リサーチ, (61) 2, pp. 107-108.
- [4] 高原勇, 赤澤邦夫, 大澤義明 (2016)：地域が保有する自動車エネルギー量の推定～. オペレーションズ・リサーチ学会 2016 年春季研究発表会, pp. 160-170
- [5] 高原勇, 川岸卓司, 大澤義明 (2016)：災害地域における個車の走行可能距離・日数の推定. オペレーションズ・リサーチ学会 2016 年春季研究発表会, pp. 171-172.
- [6] 赤澤邦夫, 高原勇, 大澤義明 (2016)：移動式水素ステーションの時空間配置. オペレーションズ・リサーチ学会 2016 年春季研究発表会, pp. 311-312.
- [7] 湊信及介, 高原勇, 大澤義明 (2016)：矩形都市直線移動時における逆光割合. オペレーションズ・リサーチ学会 2016 年春季研究発表会, pp.313-314.

◆ その他：

- [1] 受賞：内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局主催・地方創生☆政策アイデアコンテスト 2015・地方創生担当大臣賞：都市計測実験室「日本の将来を描写する北海道津別町 若い世代が地域を解析する」
- [2] 鹿島アントラーズ・筑波大学アカデミック・アライアンス合同研究発表会, オーガナイザー (2015 年 5 月, 鹿嶋市)
- [3] 津別町まちなか再生事業キックオフシンポジウム, オーガナイザー (2015 年 6 月, 津別町)
- [4] 平成 27 年度地域経済活性化事業茨城県商工会議所青年部連合会県北ブロック連携事業, 講演「若い世代と地方創生ー商工会青年部への熱い期待ー」(2015 年 10 月, 石岡市)
- [5] 筑波大学高大連携シンポジウム 2015, オーガナイザー (2015 年 11 月, 筑波大学)
- [6] 県民大学, 講演「足元から考える「地方創生」県南地域のこれからのまちづくり」(2015 年 12 月, 土浦市)
- [7] 津別町まちなか再生事業まちづくりシンポジウム, オーガナイザー (2016 年 1 月, 津別町)
- [8] 平成 27 年度「まちなか再生支援事業」実績報告会, 講演 (2016 年 2 月, 千代田区)

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
教育社会連携推進室長
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
社会工学域予算委員長

4. 学外の社会貢献

◆ 各種活動

- [1] 応用地域学研究・編集長（応用地域学会）
- [2] 日本都市計画学会・会長アドバイザー（日本都市計画学会）
- [3] 日本オペレーションズ・リサーチ学会・代議員（日本オペレーションズ・リサーチ学会）
- [4] 土木学会・技術推進機構・上席研究員（土木学会）
- [5] 土木学会・アセットマネジメントシステム実証のための実践研究委員会・委員（土木学会）

◆ 自治体等

- [1] 新潟県教育委員会高校等再編整備計画策定外部有識者会議・委員（新潟県）
- [2] 茨城県リサイクル製品認定審査会・会長（茨城県）
- [3] 筑波研究学園都市における街路樹の維持・再生計画・委員長（茨城県）
- [4] 水郷筑波サイクリング環境整備総合計画策定委員会・委員（茨城県）
- [5] 土浦市公共施設跡地利活用方針策定委員会・委員長（土浦市）
- [6] 土浦市公共事業再評価委員会・委員長（土浦市）
- [7] 土浦市まち・ひと・しごと創生有識者会議・委員長（土浦市）
- [8] 土浦市中心市街地活性化協議会・副委員長（土浦市）
- [9] つくば市ホテル等建設審議会・会長（つくば市）
- [10] つくば市建築審査会・会長（つくば市）
- [11] つくば市明るいまちづくり協議会・会長（つくば市）
- [12] 石岡駅橋上化推進検討委員会・会長（石岡市）
- [13] 石岡市都市再生整備計画事業評価委員会・会長（石岡市）
- [14] 石岡市都市計画審議会・副会長（石岡市）
- [15] 石岡市景観調査委員（石岡市）
- [16] 常総市復興ビジョン懇話会・会長（常総市）
- [17] 常総市復興計画策定委員会・委員長（常総市）
- [18] 水戸市景観調査委員（水戸市）
- [19] 潮来市まち・ひと・しごと創生有識者会議・委員長（潮来市）
- [20] 神栖市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議・委員（神栖市）
- [21] 茨城県立土浦第一高等学校・評議員（土浦第一高等学校）
- [22] 学校法人茗溪学園・評議員（茗溪学園）

◆ 高校出張講義・高校発表会講評

- [1] つくば秀英高等学校（2015年6月30日）
- [2] 竹園高等学校 第7回探Q研究成果発表会（2016年1月30日）

◆ 高大連携まちづくりワークショップ事業

[1]つくば秀英高等学校（2015 年 8 月）

[2]津別高等学校（2015 年 8 月）

[3]磐城高校，磐城桜が丘高等学校，福島工業高等専門学校（2015 年 8 月）

氏 名	太田 充	職 名	准教授
専攻（博士後期課程）			
専攻（博士前期課程）			
担当学類	社会工学類		
研究分野	都市経済学		

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：
- ◆ 学類 都市経済学／地域科学演習／プログラミング実習／社会工学における戦略的思考：理論、実験、および演習／
大学院 地域科学
- ◆ 指導学生数：
社会工学類 0 人／社会システム工学専攻 0 人／社会工学専攻 6 人／社会システム・マネジメント専攻 2 人

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：
科学研究費補助金基盤研究(C)
「新たな集積効果関数を用いた都市一般均衡モデルの構築」(代表)
科学研究費補助金挑戦的萌芽研究
「Radon 測度上の動的システムの研究と都市構造遷移モデルへの応用」(分担)
- ◆ 著書・論文等：
なし
- ◆ 学会発表等：
Relationship Between Urban Population Growth and Utility Level of Workers with Heterogeneity of Labor Efficiency, 北米地域科学学会年次大会(アメリカ合衆国ワシントン D.C.)、2015/11/13.
Telecommuting Has Changed Equilibrium and Optimal Urban Spatial Structure, 応用地域学会(ARSC)第 29 回研究発表大会(慶応義塾大学)、2015/11/28.
- ◆ その他：

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
無し

- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
- ◆ 学生担当委員

4. 学外社会貢献

- ◆ 都市住宅学会監事，都市住宅学会総務企画委員会副委員長

氏 名	岡田 幸彦	職 名	准教授
専攻（博士後期課程）			
専攻（博士前期課程）			
担当学類	社会工学類		
研究分野	会計学、サービス工学、社会工学		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類：社会工学実習/会計学概論/マネジメント実習/社工英語

大学院：企業評価論/サービス会計/ビジネス戦略：理論と実践

学外：京都大学大学院経営管理研究科 サービス（無形資産）会計/土浦第一高校 SGH 入門セミナー等

◆ 指導学生数：

社会工学類 5 人/社会工学学位プログラム（修士）1 人/サービス工学学位プログラム（修士）12 人/社会工学学位プログラム（博士）2 人

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

・研究代表者：科研費（若手 B）「わが国サービス企業における原価計算・原価管理の成功モデルに関する実証的研究」（2014～2016 年度、総額 377 万円）

・研究代表者：共同研究「常総市まち・ひと・しごと総合戦略マネジメントシステムの共同研究（2015～2016 年度、総額 766 万円）

◆ 著書・論文等：

・大江秋津・岩井良和・岡田幸彦(2015)「新興企業における実態に即したビジネスプランと黒字化との関係の実証研究」『組織科学』、49(2)、66-78 頁。

・伊藤嘉博（編著）・岡田幸彦・南知恵子・山本浩二・清水孝・庵谷治男・長谷川恵一・小林啓孝・加藤典生・目時壮浩・平野光俊(2016)『サービス・リエンジニアリング—顧客の感動を呼ぶホスピタリティを低コストで実現する』中央経済社。

・岡田幸彦・中村亮介・大雄智(2015)「ビジネスモデルと会計処理—提携型ポイントプログラムの事例から—」『会計』188(4)、496-507 頁。

・岡田幸彦・尻無濱芳崇(2015)「サービス企業におけるコスト意識と採算性の実証分析」『企業会計』67(9)、1271-1278 頁。

・山矢和輝・岡田 幸彦(2015)「実証的な AIS 研究の潮流と将来の発展方向—IJAIS を中

心に一」『産業経理』75(2)、79-89 頁。

- ◆ 学会発表等： 多数
- ◆ その他：
筑波大学 SS 評価教員 Best Faculty Member

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
筑波大学サービス工学ビッグデータ CoE コーディネーター
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
広報委員長

4. 学外の社会貢献

- ◆ 各種活動
 - ・ 統計数理研究所 客員准教授（無報酬）
 - ・ インダストリアル・バリューチェーン・イニシアティブ 発起人・学会会員（無報酬）
 - ・ 土浦第一高校スーパー・グローバル・ハイスクール 筑波大学代表（無報酬、セミナー講演等については規定に基づく報酬有）
 - ・ 一般財団法人清国奨学会 理事（工学系学生への奨学事業、無報酬）
 - ・ 常総市復興ビジョン懇話会 事務局（無報酬）
 - ・ 常総市復興計画策定委員会 事務局（無報酬）
 - ・ サービス・フロンティア・ジャパン（幹事：株式会社ルネサンス 代表取締役会長 斎藤敏一、株式会社吉野家ホールディングス 代表取締役社長 河村泰貴、キュービーネット株式会社 代表取締役社長 北野 泰男ほか） 経営者フォーラム講師（報酬有）

氏 名	岡本 直久	職 名	教授
専攻（博士後期課程）	社会工学専攻 専任		
専攻（博士前期課程）	社会工学専攻 専任（社会工学学位プログラム、サービス工学学位プログラム担当）		
担当学類	社会工学類		
研究分野	交通、観光、社会資本、プロジェクト評価、港湾・物流		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類 交通運輸政策／都市計画マスタープラン策定実習／情報リテラシー・演習／
社会基盤と国土

大学院 社会基盤計画学／観光の科学

◆ 指導学生数：

社会工学類 1人

社会工学専攻(社会工学学位プログラム) 3人

社会システム・マネジメント専攻 1人

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

- ・ 科学研究費 基盤研究(B) 複数の観光交通データの融合的活用方法の開発と政策評価への展開（研究代表者）
- ・ 科学研究費 基盤研究(B) 交通関連調査体系の再構築と政策評価への展開（研究分担者）
- ・ 科学研究費 基盤研究(C) 観光振興のためのマーケットデザインに関する研究－効果的な日本型 DMO 構築に向けて（研究分担者）
- ・ 委託研究費 戦略的イノベーション創造プログラム 道路インフラマネジメントサイクルの展開と国内外への実装を目指した統括的研究（研究分担者）
- ・ 戦略的イノベーション創造プログラム：道路インフラマネジメントサイクルの展開と国内外への実装を目指した統括的研究・提案するアセットマネジメントシステムの地方自治体への実装研究（科学技術振興機構、研究分担者）

◆ 著書・論文等：

査読付学術論文

- ・ 森川裕貴・岡本直久：地域鉄道の維持に関する考察-時 系列データによる検討-，論文集 交通学研究会，第 58 号，121 頁～128 頁，2015 年 5 月
- ・ Mami IWAKATA, Naohisa OKAMOTO, Haruo ISHIDA, Tetsuro HYODO: A Study

of Freight Facility Location in Tokyo Metropolitan and its Future, Journal of the Eastern Asia Society for Transportation Studies, Vol. 11, pp.722-738, 2015.12

◆ 学会発表等：

- ・ 濱野百恵・石田東生・岡本直久：関東地方の「道の駅」に対する利用者評価構造に関する研究；土木計画学研究発表会・講演集, Vol.52, CD-ROM 講演番号 69, 2015. 年 11 月

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
研究科入試実施委員会委員
学群入学試験実施委員会委員
つくばエコシティ推進グループ委員
日越大学 公共政策プログラム幹事校幹事
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
社会工学専攻 専攻入試実施委員会委員長

4. 学外の社会貢献

- ◆ ICTを活用した訪日外国人観光動態調査検討委員会：観光庁：委員
- ◆ 第10回全国貨物純流動調査の分析・とりまとめに関する検討会：国土交通省総合政策局：委員
- ◆ 港湾局関係公共事業評価手法研究委員会：国土交通省港湾局：委員
- ◆ コンプライアンス・アドバイザー委員会：国土交通省関東地方整備局：委員
- ◆ 東京都市圏総合都市交通体系あり方検討会：国土交通省関東地方整備局：委員
- ◆ 茨城県移動性・安全性向上委員会：国土交通省関東地方整備局：委員長
- ◆ 茨城県国土強靱化地域計画有識者会議：茨城県：委員
- ◆ 茨城県公共事業再評価委員会：茨城県：委員
- ◆ 茨城県茨城県地方港湾審議会：茨城県：副会長
- ◆ 土浦市公共交通活性化協議会：土浦市：会長
- ◆ 牛久市地域公共交通会議：牛久市：副会長
- ◆ 取手市都市計画審議会：取手市：委員
- ◆ 筑西市「道の駅」整備推進協議会：筑西市：会長
- ◆ 潮来市地域公共交通活性化協議会：潮来市：委員
- ◆ 佐野市専門委員
- ◆ Eastern Asia Society for Transportation Studies：事務局長(2015.10-)

氏 名	奥島 真一郎	職 名	准教授
専攻（博士後期課程）			
専攻（博士前期課程）			
担当学類	国際総合学類（専任）、社会工学類		
研究分野	環境経済学、政策分析		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類 環境政策論（国際総合学類開講社会工学類共通）/国際学概論Ⅴ（国際総合学類必修科目）/総合科目Ⅰ（国際総合学類）/総合科目Ⅱ（国際総合学類）/国際学ゼミナールⅠ（国際総合学類）/独立論文（国際総合学類）/国際学ゼミナールⅡ（国際総合学類）/卒業論文（国際総合学類）/都市計画実習（社会工学類開講国際総合学類共通）

大学院 公共政策論（社会工学専攻）

◆ 指導学生数：

国際総合学類 6人/社会工学専攻 1人

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

住友財団環境研究助成（一般研究）（代表）

平成27年度筑波大学システム情報系若手融合プロジェクト（分担）

◆ 著書・論文等：

“Energy Poverty in Japan after the 2000s” USAEE Working Paper, No. 16-247, March 2016.

“What are the determinants of renewable energy use in localities? the Japanese case”（共著）Global Cleaner Production and Sustainable Consumption Conference 2015, November 2015.

“An Anthropomorphic Approach to Presenting Information on Demand Response Reflecting Household’s Environmental Moral”（共著）Proceedings of the 3rd International Conference on Human-Agent Interaction, pp. 329-332, October 2015.

“What Are the Forces that Drive the Change in Energy Poverty? The Japanese Case” Proceedings of the 38th International Conference of the International Association for Energy Economics, May 2015.

◆ 学会発表等：

“What are the determinants of renewable energy use in localities? the Japanese case”（共同発表）Global Cleaner Production and Sustainable Consumption Conference 2015, Meliá Sitges Hotel Congress Centre, Sitges, Spain, November 2, 2015.

“An Anthropomorphic Approach to Presenting Information on Demand Response Reflecting Household’s Environmental Moral”（共同発表）The 3rd International Conference on Human-Agent Interaction, Kyungpook National University, Daegu, Korea, October 22, 2015.

“What Are the Forces that Drive the Change in Energy Poverty? The Japanese Case” The 38th International Conference of the International Association for Energy Economics, Gloria Golf Resort, Antalya, Turkey, May 27, 2015.

3. 学内運営

◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：

大学院カリキュラム委員

国際総合学類カリキュラム委員

国際総合学類シス情 TA 担当委員

国際総合学類一年生クラス担任リーダー

4. 学外の社会貢献

◆ 各種活動

一橋大学経済研究所非常勤研究員

常総市まち・ひと・しごと総合戦略マネジメントシステム（共同研究者）

日本政策学生会議（ISFJ）論文審査員

氏 名	甲斐田 直子	職 名	助教
専攻（博士後期課程）			
専攻（博士前期課程）			
担当学類	社会工学類		
研究分野	環境経済・政策学、環境心理学、環境配慮行動研究、持続性研究		

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：
 - 学類 都市環境評価論／都市・地域・環境を探る II
 - 大学院 Introduction to Environmental Policy／環境政策概論
- ◆ 指導学生数：
 - 社会工学類 1 名／環境科学専攻 2 名

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：
 - 科学研究費（挑戦的萌芽研究）「環境配慮行動と充足感のポジティブな連鎖に関する縦断的研究」（代表）
 - 科学研究費（基盤（B）海外学術調査研究課題）「マレーシア汚濁淡水源におけるエコゲノミクスを用いた浄水処理障害微生物の実態調査」（分担）
 - 日本学術振興会（課題設定による先導的人文・社会科学研究推進事業（領域開拓プログラム））「エネルギー政策・言説の日独地域比較」（分担）
 - マレーシア教育省（Pagoh Project Research Fund）「マレーシア研究学園都市における廃棄物リサイクルシステムの社会経済評価」（代表）
- ◆ 著書・論文等：
 - Kaida, N. and Kaida, K. (2015). Spillover effect of congestion charging on pro-environmental behavior. *Environment, Development and Sustainability*, 17: 409-421.
 - Miah, M.T. and Kaida, N. (2015). Evaluating potential benefits of welfare packages for development-induced involuntary resettlement in Bangladesh. *Journal of Sustainable Development*, 8(1): 203-217.
 - Kaida, N. (2015). Explaining pro-environmental behavior by a relative sense of place attachment to neighborhood and city. *Journal of Human Environmental Studies*, 13(1): 71-75.
 - Kaida, N. and Miah, M.T. (2015). Rural-urban perspectives on impoverishment risks in development-induced involuntary resettlement in Bangladesh. *Habitat*

International, 50: 73-79.

Kaida, N. and Kaida, K. (2016). Pro-environmental behavior correlates with present and future subjective well-being. *Environment, Development and Sustainability*, 18: 111-127.

Kaida, N. and Dang, N.A. (2016). Tourists' perception of marine ecosystem conservation in the Nha Trang Bay Marine Protected Area, Vietnam. *TROPICS*, 24(4): 187-194..

Kaida, N. and Kaida, K. (2016). Facilitating pro-environmental behavior: The role of constructive pessimism and anthropocentric environmental values. *Social Indicators Research*, 126: 1243-1260.

◆ 学会発表等：

Kaida, N. and Kaida, K. (2015). Change in pro-environmental behavior intentions after receiving correct information of CO2 reduction, 2015 American Psychological Association Convention, August 2015, Toronto.

Kaida, N. and Kaida, K. (2015). Momentary satisfaction of engaging in pro-environmental behavior: New scale development and its correlations with happiness-related scales, Fourth World Congress on Positive Psychology, June 2015, Florida. 石崎絢子・劉雨晨・甲斐田直子, 消費者のエコ志向・節約志向が環境配慮行動に与える促進効果, 日本環境心理学会第9回大会, 文京学院大学, 2016年3月.

鈴木万裕・劉雨晨・甲斐田直子, 商業施設内トイレの環境整備にともなう利用時の満足度と混雑度の関係, 日本環境心理学会第9回大会, 文京学院大学, 2016年3月.

劉雨晨・甲斐田直子, Hedonia-eudaimoniaによる動機付けがごみ分別行動促進に与える影響: 大学生を対象とした介入実験を事例に, 日本環境心理学会第9回大会, 文京学院大学, 2016年3月.

◆ その他：

3. 学内運営

◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：

JUC 防災小委員会事務局（マレーシア日本国際工科院に新設予定の防災修士プログラムに対する日本国内支援大学コンソーシアム内小委員会）

◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：

社会工学類：スポーツデー委員会

社会工学専攻：広報オリエンテーション委員会

環境科学・持続環境学専攻：SUSTEP 英語教育プログラム委員会、JDS 委員会、学際専攻再編準備室 MJIIT 国際共同学位プログラム検討 WG

4. 学外の社会貢献

- ◆ 茨城県鹿嶋市学校防災推進委員会委員
- ◆ 茨城県鹿島市立平井小学校学校地域防災力強化委員会
- ◆ 越谷市下水道料金審議委員会委員

氏 名	金澤 雄一郎	職 名	教授
専攻（博士後期課程）	社会工学専攻 専任		
専攻（博士前期課程）	社会工学専攻 専任		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	統計科学（ノンパラメトリック回帰関数・密度関数推定論、欠損値の解析）・ 経済学（新実証産業組織論・需要解析）・経営科学（組織行動論・マーケティングサイエンス）・計量犯罪学		

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：
学類：データ解析・社会工学専門英語
大学院：統計解析
- ◆ 指導学生数：
社会工学類 5 人／社会工学専攻 7 名/社会システム・マネジメント専攻 1 人

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：
以下の 4 つの科学研究費補助金その他に基づき研究活動を行った。
 1. ベイズ理論を用いた MS-AIDS モデルの推定法・モデル選択法の提案とその応用
日本学術振興会科学研究費補助金挑戦的萌芽研究 No.25590051
(研究代表者)
 2. 合理的に行動する生産者と非合理的な消費者パラダイムの実証産業組織論における
検証日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究(B)No. 15H03333 (研究代表者)
 3. 看護行動研究への組織心理学的アプローチ
日本学術振興会科学研究費補助金(B) No.23330120
(研究分担者)
 4. 日本の男子性犯罪受刑者に対する性犯罪防止プログラムの再犯抑止効果
日本学術振興会科学研究費補助金(C) No. 26380926
(研究分担者)
- ◆ 著書・論文等：
Nishida, K. & Kanazawa, Y. “On Variance-Stabilizing Multivariate Non Parametric Regression Estimation,” Communications in Statistics - Theory and Methods Volume 44, Issue 10, 2015 2014 Impact Factor: 0.274,
- ◆ 学会発表等：
 1. “CAN properties of the regional BLP(1995) estimator in the presence of national micro moments: A simulation study,” 第 17 回ノンパラメトリック統計

解析とベイズ統計 3月29日～30日, 慶応義塾大学三田キャンパス南校舎421教室

2. “CAN properties of the regional BLP(1995) estimator in the presence of national micro moments: A simulation study,” RIMS 共同研究「Statistical Inference on Divergence Measures and Its Related Topics」, 3月7日～9日、京都大学数理解析研究所111号室
3. “CAN properties of the regional BLP(1995) estimator in the presence of national micro moments: A simulation study,” 9th International Conference on Computational and Financial Econometrics, December 12-14, Gordon, Senate House, University of London, UK
4. “Evaluating the effects of the rehabilitative program for sex offenders in Japanese prisons,” Reentry, Recidivism, and Rehabilitation: Understanding 'What Works' II, November 16-21, Washington Hilton, DC, USA
5. “Are manufacturers’ efforts to improve their brands’ reputation really rewarded? The case of Japanese yogurt market.” 2015 INFORMS Marketing Science Conference 2015, June 17-20, Baltimore Marriott Waterfront Hotel, Maryland, USA

3. 学内運営

- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
就職委員会委員長

4. 学外の社会貢献

- ◆ 1. 独立行政法人日本学術振興会成果公開部会社会科学系小委員会座長
- ◆ 2. JABEE（日本技術者教育認定機構）認定工学（融合複合・新領域）分野審査員
- ◆ 3. 東京大学教養学部広域科学科・広域システム科学系客員教授
- ◆ 4. 国際基督教大学非常勤講師
- ◆ 5. Reviewer: Mathematical Reviews

氏 名	岸本一男	職 名	教授
専攻（博士後期課程）			
専攻（博士前期課程）			
担当学類	社会工学類		
研究分野	数理工学		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

社会工学類：微積分 2，数理解析，専門英語，経営の科学 I

社会工学専攻：金融デリバティブ

◆ 指導学生数：

社会工学類 1 名

社会工学専攻：社会工学学位 P（前期）：3 名

社会システム工学専攻：1 名

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

科学研究費基盤研究（C）（一般）「原理政党」存在下での空間的投票理論とその応用（代表）

証券市場での日中価格変動の研究

◆ 著書・論文等：

なし

◆ 学会発表等：

(ア)佐藤 達己・岸本 一男：「原理政党存在下での政党の政策位置の解析とその検証（有権者分布が 2 峰性の場合）」 日本応用数理学会春の連合発表会，2016 年 3 月 4 日，神戸学院大学 ポートアイランドキャンパス（兵庫県神戸市）

(イ)佐藤 達己・岸本 一男：「選挙分析における効果的な地域分割の検討」，日本応用数理学会数理政治研究部会，2016 年 2 月 13 日，政策研究大学院大学（東京都港区）

(ウ)佐藤 達己・岸本 一男：「我が国国政選挙の社会経済分類による計量分析」，日本応用数理学会年会，2015 年 9 月 9 日，金沢大学 角間キャンパス（石川県金沢市）

(エ)張 せい・野口 裕未・岸本 一男：「大証日経平均先物のリアライズド・ボラティリティの振る舞いについて」，日本応用数理学会年会，2015 年 9 月 9 日，金沢大学 角間キャンパス（石川県金沢市）

(オ)岸本 一男：「空間的投票理論における認知誤差の影響」，日本選挙学会研究会，2015 年 5 月 17 日，市民会館崇城大学ホール（熊本県熊本市）

- ◆ その他：
なし

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
全学：教職課程委員
システム情報系：コンプライアンス推進委員会委員
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
社会工学類クラス担任（3年）

4. 学外の社会貢献

- ◆ 各種活動
応用数理学会選挙管理委員長
応用数理学会 JSIAM Letters 編集委員
応用数理学会数理政治研究部会幹事
日本電子情報通信学会査読委員
東京大学社会科学研究所諮問委員
日本国際賞推薦人

氏 名	鬼頭 朋見	職 名	助教
専攻（博士後期課程）			
専攻（博士前期課程）			
担当学類	社会工学類		
研究分野	社会ネットワーク、複雑創発系、オペレーションマネジメント、システム論		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類： 地域科学演習、都市計画マスタープラン策定実習

大学院： 地域科学

◆ 指導学生数：

該当なし

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

【競争資金／研究プロジェクト】

- ・ 2014-2016 年度（継続）：科学研究費 若手研究（B）（複合領域-社会・安全システム科学-社会システム工学・安全システム）：3900 千円
研究課題：『レジリエンスと企業の生存戦略を考慮したサプライネットワークの構造解析と設計提案』（研究代表者）
- ・ 2014-2017 年度（継続）：科学研究費 基盤研究（A）（情報学-情報フロンティア-ウェブ情報学・サービス情報学）：総額 4,5800 千円
研究課題：『製品/サービスの価値創成ネットワークに関する理論構築と実証』（研究分担者）
- ・ 2013-2015 年度（継続）：Saïd Business School Foundation Strategic Development Fund：£57,707 研究課題：” Supply Chain Mapping”（研究分担者）
- ・ リサーチユニット重点配分『ビッグデータと地理空間情報を活用した我が国の産業・企業研究』（新人）

◆ 著書・論文等：

【査読付学術雑誌論文】

- ・ 鬼頭朋見：『2 部ネットワークの投影による自動車部品の特性とサプライヤのポートフォリオの多様性解析』，人工知能学会論文誌，Vol.30，No.6，2015.
- ・ T.Kito, S.New, K.Ueda: “How automobile parts supply network structures may reflect

the diversity of product characteristics and suppliers' production strategies", CIRP Annals - Manufacturing Technology, 64(1): 423-426, 2015.

- T.Kito: "Towards capturing heterogeneity of supply network structures and their temporal transitions: An investigation of supply relationships in the Japanese automobile industry", Evolutionary and Institutional Economics Review, pp.1-15, 2015.
- S.New, T.Kito: "Supply network resilience: A review and a critique of recent research", Proceedings of the 2015 Annual Cambridge Manufacturing Symposium, Cambridge, UK, 2015 September 24th-25th.
- S.New, T.Kito: "Ontology for supply network modelling: Boundaries, nodes and links", Proceedings of the 22nd EurOMA Conference, Operations Management for Sustainable Competitiveness, Neuchâtel, Switzerland, 2015 June 26th-July 1st.

◆ 学会発表等：

【査読付き国際会議発表】

- T.Kito, T.Ogata: "Firms' strategies and patterns of their interdependencies: An emergent synthesis perspective", 10th CIRP Conference on Intelligent Computation in Manufacturing Engineering, Napoli, Italy, 2016 July 20th - 22nd (採択決定).
- T.Kito: "Capturing the heterogeneity and dynamics of supply relationship formations in the Japanese automobile industry", NetSci-X, Wrocław, Poland, 2016 January .11th - 13th.
- T.Kito, S.New: "Revisiting the scale-free discussion: The non-scale-free property of supply networks and the underlying principles", International Conference on Socio-economic systems with ICT and Networks, Tokyo, Japan, 2016 March 26th - 27th.
- S.New, T.Kito: "Supply network modeling: boundaries, nodes and links", Proceedings of the 7th Annual Conference of Operations Management and Strategy Association, Tokyo, Japan, 2015 June 12th - 14th.

◆ その他：

- T.Kito, S.New, F.Reed-Tsochas: "Modelling protocols for supply chain mapping", Discussion Meeting at Hertford College, University of Oxford, UK, April 2015 (基調講演).

1. 学内運営

◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：

- ・ 2015 Tsukuba Global Science Week セッション組織委員
- ・ 米軍子弟高大連携プロジェクト

◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：

- ・ 社会工学専攻 留学生支援委員会・学生相談室
- ・ 社会工学類都市工学主専攻 4年生クラス担任

2. 学外の社会貢献

◆ 各種活動

- ・ 国立研究開発法人産業技術総合研究所 客員研究員
- ・ 国立大学法人東京大学人工物工学研究センター 協力研究員
- ・ 国立大学法人東京大学大学院工学系研究科システム創成学専攻 学生指導受託
- ・ 国際会議(International Conference on Socio-economic systems with ICT and Networks) 組織委員

氏 名	倉田 久	職 名	准教授
専攻（博士後期課程）			
専攻（博士前期課程）			
担当学類	社会工学類		
研究分野	サプライチェーン・マネジメント、オペレーションズ・マネジメント		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類科目：経営工学概論／経営情報システム

大学院科目：サプライチェーン・マネジメント

◆ 指導学生数：

学類 4 年生 3 名、社会工学専攻博士前期課程(社会工学学位プログラム)2 名、社会工学専攻博士後期課程 2 名、研究生 1 名

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

研究代表者：科学研究費補助金 基盤研究 (C)・26350413.

主査：日本経営工学会 サービス研究部門 平成 27 年度研究プロジェクト「IE 技法の対人サービスへの応用の諸検討」

◆ 著書・論文等：

【査読付き国際会議録掲載論文】

Hisashi Kurata and Berdymyrat Ovezmyradov (2015), “Modeling the manufacturer-retailer interaction of a razor and razor blade business model facing competition from a low price third party product” The proceedings of the Asia-Pacific Industrial Engineering and Management Systems (APIEMS) 2015 conference, Ho Chi Minh City, Vietnam on December 9-11, 2015.

Berdymyrat Ovezmyradov and Hisashi Kurata (2015), “Effects of active response of consumers to stockout on performance of fashion supply chain,” Proceedings of the Asia-Pacific Industrial Engineering and Management Systems (APIEMS) 2015 conference, Ho Chi Minh City, Vietnam on December 9-11, 2015.

Hisashi Kurata and Berdymyrat Ovezmyradov (2015), “Study of Price Matching Performance between Two Retailers When Confronting an Online Shop Offering the Lowest Price,” Proceedings of Asia-Pacific Decision Sciences Institute (APDSI) 2015 conference, Hong Kong on July 20-22, 2015.

◆ 学会発表等：

Hisashi Kurata and Berdymyrat Ovezmyradov, “Modeling the manufacturer-retailer interaction of a razor and razor blade business model facing competition from a low price third party product,” The APIEMS2015 conference in Ho Chi Minh, Vietnam, December 10, 2015.

Berdymyrat Ovezmyradov and Hisashi Kurata, “Effects of active response of consumers to stockout on performance of fashion supply chain,” The APIEMS2015 conference in Ho Chi Minh, Vietnam, December 9, 2015.

倉田久、「オンラインショップ最安値影響下での店舗選択要因とプライスマッチング戦略の関連」 日本経営工学会 平成 27 年春季研究大会（会場：金沢工業大学）、平成 27 年 11 月 29 日

Hisashi Kurata and Berdymyrat Ovezmyradov, “Study of price matching performance between two retailers when confronting an online shop offering the lowest price,” The 20th Asia-Pacific Decision Sciences Institute conference (APDSI) 2015 in Hang Seng Management College, Hong Kong, July 20, 2015.

倉田久、「最安値ネット販売の影響下でのプライスマッチング競争の考察」、日本経営工学会 平成 27 年春季研究大会（会場：首都大学東京南大沢キャンパス）、平成 27 年 5 月 17 日

Hisashi Kurata, “Study on loyalty management over product lifecycle considering customer response to product stockouts.” The POMS 26th annual meeting in Washington DC, May 11, 2015.

◆ その他：

平成 27 年度 筑波大学システム情報系 教育貢献賞（平成 28 年 4 月 6 日に表彰）

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：

シス情研究科 システム情報工学研究科長候補者選出意向調査委員会 委員
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：

社会工学専攻 大学院カリキュラム委員
社会工学類 クラス担任（社工1年生）

4. 学外の社会貢献

- ◆ 学会理事

日本オペレーションズ・マネジメント&ストラテジー学会（JOMSA）理事（研究担当）及び発起人
- ◆ 学術雑誌編集委員

Editorial Board member of “International Journal of Revenue Management,” April 2009-present.
- ◆ 学会賞対象校の承認活動

公益社団法人日本経営工学会「優秀学生賞」の対象校として理工学群社会工学類経営工学主専攻の認定の実現、平成28年（2016年）1月認定.
- ◆ 企画セッションの運営・実施

日本経営工学会 2015年秋季大会（会場：金沢工業大学）にてサービス研究部門の企画セッションを計画・運営・実施、平成27年（2015年）11月28日.
- ◆ Ad-hoc reviewer（学会誌査読）

European Journal of Operational Research
International Journal of Production Economics
International Journal of Production Research
Transportation Research
- ◆ 学術交流イベントでの発表

学術講演 「The value of information in supply chain management: Review of information sharing research and its directions」、2015年度つくばサイエンスウィーク Tsukuba Global Science Week (TGSW) 2015での講演、平成27年9月29日.
- ◆ 講演会企画・運営

日本経営工学会サービス研究部門 第1回目 2015 年度研究プロジェクト講演会「人間行動に基づくサービスシステムの理解と設計」

講師：竹中毅氏（産業技術総合研究所 人間情報研究部門 サービス設計工学研究グループ 主任研究員）

日時：平成 27 年 10 月 14 日（水）

会場：首都大学東京秋葉原キャンパス会議室 D

日本経営工学会サービス研究部門 第2回目 2015 年度研究プロジェクト講演会「公的機関によるサービスと民間企業によるサービスの相違」、

講師：島田智明先生（神戸大学大学院経営学研究科 准教授）

日時：平成 27 年 12 月 15 日（火）.

会場：筑波大学 3C 棟 405 教室

氏 名	栗野 盛光	職 名	助教
専攻（博士後期課程）			
専攻（博士前期課程）			
担当学類	社会工学類		
研究分野	マーケットデザイン、ミクロ経済学、ゲーム理論、実験経済学		

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：
 - 学類：戦略行動システム演習/公共経済学
 - 大学院：行動実験経済学
- ◆ 指導学生数：
 - 社会工学類 3人/社会工学学位P（前期） 3人

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：
 - 科学研究費 基盤研究B（一般）「肝臓・肺生体交換移植ネットワークの構築」（代表）
 - 科学研究費 挑戦的萌芽「分権的マッチング制度の理論研究」（代表）
 - 科学研究費 挑戦的萌芽「パレート効率な自治体連携の可能性と限界-マッチング理論による地方創生-」（分担者）
 - トヨタ・社工共同研究、プロジェクトコードCCE27030（代表）
- ◆ 著書・論文等：
 - O. Kesten and M. Kurino, “Do Outside Options Matter in Matching? A New Perspective on the Trade-offs in Student Assignment,” Discussion Paper Series No. 1342, Department of Policy and Planning Sciences, University of Tsukuba, March 2016
 - H. Anno and M. Kurino, “On the Operations of Multiple Matching Markets,” Discussion Paper Series No. 1343, Department of Policy and Planning Sciences, University of Tsukuba, March 2016
- ◆ 学会発表等：
 - 学会発表
 - SED conference, トルコ、2015年7月4日
 - 招待講演
 - 京都大学実験経済学ワークショップ（2015年7月13日）、行動経済学会（2015年11月28日）
 - 大学セミナー研究発表
 - 東京大学経済学研究科（2015年6月2日）、カーネギーメロン大学（2015年9月13日）

日)、京都大学経済学研究科 (2016 年 3 月 7 日)

◆ その他 :

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献 :
日越大学院準備委員
- ◆ 専攻組織の業務への貢献 (委員会等) :
就職委員会委員

4. 学外の社会貢献

- ◆ 各種活動
 - ドイツ外務省、コンサルタント、2014 年 8 月-
 - 学術雑誌の査読 (カッコ内は査読した論文数) : CESifo Economic Studies (1), Games and Economic Behavior (2), Journal of Economic Theory (1), Journal of Mathematical Economics (1), Journal of the Operations Research Society of Japan (1), Journal of Public Economics (1), Mathematical Social Sciences (1), Social Choice and Welfare (1)

氏 名	小林 佑輔	職 名	准教授
専攻（博士後期課程）			
専攻（博士前期課程）			
担当学類	社会工学類		
研究分野	グラフアルゴリズム，離散構造，組合せ最適化，離散数学		

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：
 - 学類： 微積分 I / 社会工学実習
 - 大学院： 数理最適化理論
- ◆ 指導学生数： 0 人

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：
 - ✧ 科研費 若手研究(B) 「グラフマイナーアルゴリズムにおける双対概念の利用」，研究代表者
 - ✧ 新学術領域研究 「数理論理学からの計算限界解析」，研究分担者.
 - ✧ JST, ERATO, 河原林巨大グラフプロジェクト，協力研究者
 - ✧ 科研費 基盤研究(A) 「老朽化する都市インフラの選択集中整備に関する理論・実証研究」 研究分担者
- ◆ 著書・論文等：
 - ✧ Kensuke Otsuki, Yusuke Kobayashi, and Kazuo Murota: Improved max-flow min-cut algorithms in a circular disk failure model with application to a road network, European Journal of Operational Research, 248 (2016), pp. 396-403.
 - ✧ Attila Bernáth, Yusuke Kobayashi, and Tatsuya Matsuoka: The generalized terminal backup problem, SIAM Journal on Discrete Mathematics, 29 (2015), pp. 1764-1782.
 - ✧ Kota Ishihara and Yusuke Kobayashi: Routing algorithms under mutual interference constraints, Journal of the Operations Research Society of Japan, 58 (2015), pp. 209-222.
 - ✧ Yusuke Kobayashi: The complexity of minimizing the difference of two M^{\sharp} -convex set functions, Operations Research Letters, 43 (2015), pp. 573-574.
 - ✧ Ken-ichi Kawarabayashi and Yusuke Kobayashi: The edge-disjoint paths problem in Eulerian graphs and 4-edge-connected graphs, Combinatorica, 35 (2015), pp. 477-495.

- ✧ Yusuke Kobayashi and Kenjiro Takazawa: Randomized strategies for cardinality robustness in the knapsack problem, Proceedings of the 13th Meeting on Analytic Algorithmics and Combinatorics (ANALCO 2016), 2016, pp. 25--33.
- ✧ Yasushi Kawase, Yusuke Kobayashi, and Yutaro Yamaguchi: Finding a path in group-labeled graphs with two labels forbidden, Proceedings of the 42nd International Colloquium on Automata, Languages, and Programming (ICALP 2015), 2015, pp. 797--809.
- ◆ 学会発表等 :
 - ✧ Yusuke Kobayashi and Kenjiro Takazawa: Randomized strategies for cardinality robustness in the knapsack problem, The 13th Meeting on Analytic Algorithmics and Combinatorics (ANALCO 2016), Arlington, USA, January 2016.
- ◆ その他 :
 - 無し

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献 :
 - 無し
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等） :
 - 学群4年生担任
 - 学群就職委員
 - 大学院入試実施委員

4. 学外の社会貢献

- ◆ 日本応用数理学会「離散システム」研究部会 幹事
- ◆ 日本オペレーションズ・リサーチ学会 庶務幹事
- ◆ ISAAC 2015 プログラム委員
- ◆ SODA 2016 プログラム委員, セッションチェア

氏 名	近藤 文代	職 名	講師
専攻（博士後期課程）			
専攻（博士前期課程）			
担当学類			
研究分野	モバイルマーケティング、ベイジアンモデル、POSデータ 解析、状態空間モデル、時系列分析		

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：

学類 担当授業科目：専門英語、経営の科学、マーケティング工学

大学院 担当授業科目：マーケティングサイエンス

- ◆ 指導学生数：

社会工学類 4人／社会工学専攻（前期）3人/社会工学専攻（後期）1人

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：

科学研究費 基盤研究（A）「データベースマーケティングと消費者理論の融合 による CRM の新展開」（分担）

- ◆ 著書・論文等：

1. Ghyas, Q. M. and Kondo, F. N., How do mobile information services improve quality of life? The case of Japanese students, International Journal of Innovation and Technology Management, (Forthcoming). [Refereed]

2. Ghyas, Q. M. and Kondo, F. N., Behavioural Intention to Use Mobile Entertainment Services among Bangladeshi Students, International Journal of E-Services and Mobile Applications, Vol.8, No.2, (Forthcoming). [Refereed]

- ◆ 学会発表等： ※国内外学会発表などの実績

1. Ghyas, Q. M. and Kondo, F. N. (2015), The Contribution of Mobile Information Services To Improve the Quality of Young User's Lives Based on Bottom-up Spillover Theory: A Case Study on Japan, ISML2015, on Aug. 23-25 at International House Osaka.

2. 脇岡浩大, 澤田悠太, 近藤文代 (2015), スイッチング動機によるセグメント別のロイヤルティ係数を用いたブランド選択モデルの構築, 2015年度統計関連学会連合大会講演報告集, p.106.

- ◆ その他：

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：ウィーン経済経営大学（学術協定校）の調停者
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：学生担当委員、FD 委員会

4. 学外の社会貢献

- ◆ 各種活動 （委員会等）

氏 名	佐野 幸恵	職 名	助教
専攻（博士後期課程）			
専攻（博士前期課程）			
担当学類	社会工学類		
研究分野	社会経済物理、計算社会科学、ウェブサイエンス		

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：
学類：線形代数Ⅰ／プログラミング実習
大学院：社会シミュレーション
- ◆ 指導学生数：
社会工学類 2人／社会工学学位P（前期）1人

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：
平成 27 年度 経済産業省 「ビッグデータとその解析技術を活用した新指標の開発事業（指標開発）」（代表：東京工業大学・高安美佐子） 共同研究者
- ◆ 著書・論文等：
 - [1] M. Takayasu, K. Sato, Y. Sano, K. Yamada, W. Miura, and H. Takayasu, “Rumor diffusion and convergence during the 3.11 Earthquake: a Twitter case study,” *PLoS ONE*, Vol. 10(4), e012144 (2015). [査読付き投稿論文]
 - [2] Y. Sano, H. Takayasu, and M. Takayasu, “Emotional changes in Japanese blog space resulting from the 3.11 Earthquake”, *Proceedings of the Social Modeling and Simulations + Econophysics Colloquium 2014 (SMSEC2014)*, pp. 289-299 (2015). [査読付き国際会議録]
- ◆ 学会発表等：
 - [1] Y. Sano, H. Takayasu, and M. Takayasu, “Fluctuation scaling in online social media,” *International 23rd Conference on Noise and Fluctuations (ICNF 2015)*, Xi'an, China, June 2-6 (2015). [招待講演]
 - [2] 佐野幸恵、高安秀樹、高安美佐子 “ソーシャルメディアの書き込み数における揺らぎ”、2015 年度人工知能学会全国大会(第 29 回)、はこだて未来大、5/30-6/2 (2015). [口頭発表]

[3] 佐野幸恵、“関東・東北豪雨災害におけるツイート数のダイナミクス”、平成27年度 統計数理研究所共同研究集会「社会物理学の現代的課題」、統計数理研究所、1/8 (2016). [口頭発表]

- ◆ その他：
2015 年度人工知能学会全国大会 優秀賞

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
 - ・ 研究戦略室（全学） 室員
 - ・ 筑波大学主催リケジョサイエンス合宿 講師 （2015/8/5, 6）
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
 - ・ 学類・大学院 予算委員
 - ・ 学類 広報委員
 - ・ TGSW2015 にて香港理工大との交流セッションの企画・運営（2015/9/28-30）

4. 学外の社会貢献

- ◆ 論文査読(PLoS ONE, Physica A, Europhysics Letters, International Journal of Modern Physics B, 人工知能学会論文誌、情報処理学会論文誌)
- ◆ 日本物理学会 研究費配分に関する教育研究環境検討委員会 委員（2015/4-2016/3）
- ◆ お茶の水女子大学大学院 「情報科学特別講義」 オムニバス講師（2015/11/28）
- ◆ サイエンスアゴラ 2015 研究 100 連発 一般向け講演（2015/11/15）
- ◆ 茨城県常総市 復興ビジョン懇親会 事務局（2015/11-12）
- ◆ 茨城県常総市 復興計画策定委員会 事務局（2016/1-3）

氏 名	繁野麻衣子	職 名	教授
専攻（博士後期課程）			
専攻（博士前期課程）			
担当学類	社会工学類		
研究分野	最適化、ネットワーク理論		

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：
学類 数理最適化法／数理工学モデル化実習／計算機科学／社会工学特設講義
大学院 応用最適化／離散数理
- ◆ 指導学生数：
学類 4人／社会工学学位P(後期) 2人／社会工学学位P(前期) 18人

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：
科学研究費 基盤研究（C）「実問題への適応能力のあるネットワーク最適化アルゴリズムと構造解析手法の発展的展開」（代表）
科学研究費 基盤研究（B）「錐最適化技術の実社会における利活用を加速させる基礎理論の整備と深化」（分担）
科学研究費 基盤研究（B）「肝臓・肺生体交換移植ネットワークの構築」（分担）

共同研究(経費無し) 産業総合研究所「リソース最適化に関する研究」
共同研究(寄附金) 株式会社サイゼリヤ「ファミリーレストランにおける調理工程の効率化」
共同研究 株式会社デンソー「地域密着型移動サービスシステムに対する顧客満足度向上を目指したシミュレーターの開発」
- ◆ 著書・論文等：
Hikoe Enomoto, Masahiro Hachimori, Shun Nakamura, Maiko Shigeno, Yuya Tanaka, and Masaki Tsunami, "Pure-strategy Nash equilibria on competitive diffusion games," Discussion Paper Series No. 1333.

Mingchao Zhang , Song Luo, and Maiko Shigeno, On the Number of Edges in a Minimum C6-Saturated Graph, Graphs and Combinatorics, 31, Issue 4, pp 1085-1106 2015.

◆ 学会発表等：

Song Luo, Yuji Matsuura, Ying Miao, Maiko Shigeno, " Non-Adaptive Group Testing on Complete Graphs with Connectivity," The 9th Hungarian-Japanese Symposium on Discrete Mathematics and Its Applications, 2015/6/2-5, Fukuoka

Yosuke Watanabe, Kiyo Ishii, Toshiki Sato, Atsuko Takefusa, Tomohiro Kudoh, Hidemoto Nakada, Maiko Shigeno, Akiko Yoshise, " Routing and wavelength/sub-wavelength path assignment to maximizing accommodated traffic demands on optical networks," International Symposium on Scheduling 2015, 2-15/7/4-6, Kobe

佐保将秀, 繁野麻衣子「最速流問題に対する消去ータイト法」日本オペレーションズ・リサーチ学会 2015 年秋季研究発表会, 2015/9/10-11, 九州工業大学

中村俊, 坪井哲也, 長谷川大輔, 石川浩司, 木村恵介, 田中未来, 繁野麻衣子「ファミリーレストランの調理作業手順のモデル構築」サーチ学会 2015 年秋季研究発表会, 2015/9/10-11, 九州工業大学

中村俊, 坪井哲也, 長谷川大輔, 石川浩司, 木村恵介, 田中未来, 繁野麻衣子「ファミリーレストランの調理作業手順のモデル構築」スケジューリングシンポジウム 2015, 2-15/9/26-27, 青山学院大学

中村俊, 坪井哲也, 長谷川大輔, 石川浩司, 木村恵介, 田中未来, 孫傲雪, 繁野麻衣子「ファミリーレストランにおける料理提供タイミングの改善」サービス学会第 4 回国内大会, 2016/3/28-29

◆ その他：

3. 学内運営

◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：

研究科 学務・カリキュラム委員

全学 教員免許更新講習会委員

◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：

大学院 運営委員・カリキュラム委員／学類 クラス担任

4. 学外の社会貢献

米軍基地子弟ハイスクール高大連携

数理モデル高大連携

氏 名	TURNBULL Stephen John	職 名	准教授
専攻（博士後期課程）			
専攻（博士前期課程）			
担当学類	社会工学類		
研究分野	理論経済学、ゲーム理論、戦略マネジメント		

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：
 - 学類：専門英語、経済動学
 - 社会工学学位プログラム（前期）：社会工学のための数学
 - サービス工学学位プログラム（前期）：情報ネットワークの経済学
- ◆ 指導学生数：
 - 社会工学類：7人／社会工学学位プログラム：9人／研究生：1人

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：
 - 科学研究費補助金基盤研究(C) No. 26380287 「Industrial Policy Implications of Encouraging Open Source Software in Commerce and Open Projects」（代表）
- ◆ 著書・論文等：
 - YOSHIDA, Masatoshi & Stephen J. TURNBULL, “The Balanced Budget Multiplier and Labour Intensity in Home Production.” *International Journal of Economic Behavior and Organization* 3:2-1, April, pp23-30.
- ◆ 学会発表等：
 - YOSHIDA, Masatoshi & Stephen J. TURNBULL, “Imperfect Competition, Home Production, and Optimal Production of Public Goods,” *Hayama Meeting: Advances in Dynamic Economics*, March 5.
- ◆ その他：
 - 吉田雅敏龍谷大学教授とマクロ経済学モデルと財政モデルにおける不完全競争と家庭内生産に関する研究。
 - 太田充准教授と平岡紀行博士と都会人口成長による労働者効用への影響に関する研究

3. d 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
 - 香港理科大学との教育交換協定準備委員

- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：

留学生支援委員

学生相談委員

FD 委員

4. 学外の社会貢献

- ◆ 高大連携

出前講義：茨城県立日立北高等学校

発表会司会：2014 米軍子弟教育高大連携プロジェクト

- ◆ その他

Google Summer of Code 組織管理者: Python Software Foundation

Google Summer of Code メンター: GNU Mailman, Syssters

氏 名	谷 口 守	職 名	教授
専攻（博士後期課程）	社会工学専攻		
専攻（博士前期課程）	社会工学専攻		
担当学類	社会工学類		
研究分野	都市地域計画，交通計画，環境計画		

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：
 - 学類 都市計画実習／都市計画原論／総合科目「都市・地域・環境を探る」
 - 大学院前期課程 都市と環境（都市計画の課題と方法）／
- ◆ 指導学生数：
 - 社会工学類 4人／社会工学専攻（博士後期）3人
 - 社会システム工学専攻 1人／社会工学専攻（博士前期）7人／研究生 3人

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：
 - 科学研究費 基盤研究(B)「成人病化する都市の救命学：その診断・予防・リハビリシステムの体系的構築」（代表）
 - 科学研究費 挑戦的萌芽研究「サイバースペースを考慮したトータルスペース・マネジメント手法の開拓」（代表）
 - 科学研究費 基盤研究(A)「健康に配慮した交通行動誘発のための学際的研究」（分担）
 - 共同研究 「次世代社会システムとモビリティのあり方研究」（分担）トヨタ自動車株式会社
 - 研究助成金 「システム情報系社会工学域の学術研究に対する研究助成」（代表）富士通研究所
- ◆ 著書・論文等：
- ★ 著書：
 - 谷口守・高見淳史：交通まちづくりのための制度、原田昇編：交通まちづくり、一地方都市からの挑戦一、pp. 38-46、鹿島出版会、2015.
 - Doi, C. and Taniguchi, M.: Great East Japan Earthquake damage and local government relief, Management of Natural Resources, Sustainable Development and Ecological Hazards IV, pp. 209-220, 2015.
 - Mori, H. and Taniguchi, M.: Factor analysis of a move to a “Karino-machi”,

Disaster Management and Human Health Risk IV, pp.283-290, WIT PRESS, 2015.

★ 査読付き論文：

森英高・西村洋紀・谷口守：買い物支援サービスの利用意向とその促進に向けた一考察、土木学会論文集D3、Vol.71, No.5（土木計画学研究・論文集、Vol.32）、pp.I_839-I_848、2015.

土居千紘・香月秀仁・谷口守：「互助」としての住民による地区内サポートの潜在的貢献可能性、一特徴の異なる郊外住宅地を対象とした試論一、都市計画論文集、No.50-3、pp.938-944、2015.

富永透見・星野奈月・谷口守：都市の賑わいを生むO2O効果発現可能性の検討、一店舗・施設によるサイバー空間上の広報に着目して一、都市計画論文集、No.50-3、pp.553-559、2015.

谷口守・山根優生・越川知紘：多様性を内在する「小さな拠点」の俯瞰的整理の試み、一生活の砦としての役割に着目した調査報告一、都市計画論文集、No.50-3、pp.1297-1302、2015.

森英高・谷口守：予約型移動サービス運行による居住者の不安軽減に関する要因分析、交通工学研究発表会論文集、No.35、CD-Rom、pp.459-464、2015.

川村竜之介・谷口綾子・大森宣暁・谷口守：公共交通車内における協力行動と規範に関する国際比較、土木学会論文集D3、Vol.71, No.5（土木計画学研究・論文集、Vol.32）、pp.I_511-I_521、2015.

森英高・谷口守：日常生活における不安の軽減という観点からみた予約型移動サービス運行に関する一考察、交通工学論文集、Vol.2、No.2、特集号、PP.A_151-A_159、2016.

★ 査読なし論文：

星野奈月・見城伸・谷口守：インターネット上での情報伝達・交流が個人の地域活動参加意思に及ぼす影響、都市計画報告集、No.14、pp.312-316、2016.

森英高・西村洋紀・谷口守：水害リスク情報提示が地価の変動に与える影響、一「地先の安全度マップ」を活用して一、都市計画報告集、No.14、pp.276-280、2016.

谷口守・對馬和慶・山根優生：地域間における個人生活行動の経年的変化、一40年にわたる茨城県全域の買い物行動を分析対象として一、都市計画報告集、No.14、pp.270-275、2016.

★ 論説：

谷口守：過剰評価の時代に、一持続可能性評価指標の持続可能性から考える一、都市計画、Vol.64、No.1、特集：都市の評価とランキング、pp.10-13、2015.

谷口守：都市のコンパクト化の意義と可能性、市政、Vol.64、No.5、pp.16-18、2015.

松村秀一・浅見泰司・谷口守：多彩な生き方を受容する場としての「空き家」、建築雑誌、Vol.130、No.6、pp.12-17、2015.

谷口守：都市を睨んだ交通のあり方、運輸と経済、Vol.75、No.6、pp.30-34、2015.

中井検裕・谷口守・武政功・池田博俊：コンパクトなまちづくりと区画整理、区画整理士会報、V0.175、pp.17-31、2015.

谷口守：つくばエクスプレスの開業 10 周年に考える、EST メールマガジン、環境的に持続可能な交通を目指して、Vol.110、環境的に持続可能な交通(EST)普及推進委員会、2015.

斎藤親・村尾公一・谷口守・神田昌幸：都市と交通を取り巻く“いま”とは、都市と交通、No.100、pp.28-36、2016.

◆ 学会発表等：

★ 口頭発表

西村洋紀・森英高・谷口守：震災時における孤立に対する不安の認識とその要因、土木計画学研究・講演集、Vol.51、CD-ROM, No.88, 2015.

藤本宣・谷口綾子・谷口守・藤井聡：モビリティ・マネジメントにおける動機付け効果の計測に関する研究、土木計画学研究・講演集、Vol.51、CD-ROM, No.8, 2015.

佐藤正堯・土居千紘・谷口綾子・谷口守：運動・娯楽活動と社会的・環境的側面との関連分析、一牛久市を対象として一、土木計画学研究・講演集、Vol.51、CD-ROM, No.340, 2015.

谷口守・谷口綾子・佐藤正堯：健康まちづくりと都市再生特別措置法改正の対応に関する一考察、一徒歩を促進する地区環境に着目して一、第43回環境システム研究論文発表会講演集、pp.203-208、2015.

富永透見・星野奈月・見城伸・谷口守：ネット広報のO2O効果発現の要因分析、一施設・店舗特性に着目して一、土木計画学研究・講演集、Vol.52、pp.1985-1990、2015.

山根優生・谷口守・越川知紘：俯瞰的整理を通した「小さな拠点」の立地分析、一生活の礎としての機能に着目して一、土木計画学研究・講演集、Vol.52、pp.1999-2004、2015.

森英高・西村洋紀・谷口守：中山間地域でのモビリティサービス充実による居住者意識の変化、土木計画学研究・講演集、Vol.52、pp.2174-2180、2015.

星野奈月・富永透見・見城伸・谷口守：フットルース化に着目したサイバーリスクの認識、一店舗・施設におけるケーススタディー、土木計画学研究・講演集、Vol.52、pp.1977-1984、2015.

陳鶴・小田佳代子・谷口守：長期的動向を踏まえた環境バランスの可視化、一「メテオグラム」の活用を通じて一、土木計画学研究・講演集、Vol.52、pp.2128-2132、2015.

土居千紘・香月秀仁・谷口守：住民による地区内サポートの成立要素に関する一考察、土木計画学研究・講演集、Vol.52、pp.2145-2150、2015.

森英高・谷口守：居住者の不安認識にみる被災地高台の地価上昇に関する一考察、一公示
地価上昇率最高値のいわき市泉地区を対象に一、日本不動産学会学術講演集、Vol.31、
pp.131-138、2015.

富永透見・星野奈月・谷口守：ネットアクセスに着目した施設立地構造と集約実態、
ーネットコンシャスなタウンの視点からー、日本不動産学会学術講演集、Vol.31、
pp.143-150、2015.

◆ その他：

日本地域学会著作賞受賞（入門 都市計画、森北出版）

指導学生受賞（星野奈月：研究科表彰、香月秀仁：卒論発表優秀賞、学群長表彰、森英高：
Outstanding Presentation Award, TSGW）

出演：報道ライブ 21（2015.10.15.「コンパクトシティとは」）

3. 学内運営

◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：

系人事委員、系運営委員、系教員業績評価委員、研究科運営委員、研究科入試実施委員

◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：

社会工学域長、社会工学専攻長、社会工学学位プログラムリーダー、社会システム・マネ
ジメント専攻長、社会システム工学専攻長

4. 学外の社会貢献

◆ 各種活動

◆ 学会活動（役員/委員）

IFHP(International Federation of Housing and Planning) 評議員

交通計画協会 代表理事

日本都市計画学会 理事

運輸政策研究 編集委員会 副委員長

日本モビリティ・マネジメント会議 理事

都市計画協会 国際委員

◆ 学外から委嘱された委員、兼業など

内閣官房 「都市再生の推進に係る有識者ボード

都市再生緊急整備を地域の評価手法検討WG」委員

文部科学省 「大学設置・学校法人審議会」委員

国土交通省 「社会資本整備審議会 都市計画・歴史的風土分科会

都市計画部会 新たな時代の都市マネジメント小委員会」委員

国土交通省 「都市計画関連ビジネスの新たな展開に関する研究会」委員

国土交通省 「全国都市交通特性調査検討会」委員

国土交通省 「河川技術評価委員会流域計画・流域管理課題評価分科会」 委員
環境省 「中央環境審議会 総合政策部会 環境研究・技術開発推進戦略専門委員会」
委員
環境省 「交通低炭素化技術開発分野分科会」 委員
環境省 「二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金に係る審査委員会」 委員
環境省 「運輸部門における温室効果ガス排出量等の定量化及び検討・施策検討会」 委員
環境省 「平成 27 年度環境研究・技術開発の推進戦略フォローアップ等調査」 委員
国立環境研究所 「東京都市圏における環境対策のモデル分析検討会」 委員
和歌山県 「和歌山県都市計画審議会」 委員長
埼玉県 「埼玉県都市計画審議会」 委員長
茨城県 「都市計画審議会」 委員
茨城県 「公共交通活性化指針策定委員会」 委員
福岡県 「福岡県都市計画審議会マスタープラン等検討委員会」 委員
倉敷市 「倉敷市地域公共交通会議」 議長
川越市 「川越市立地適正化計画研究会」 座長
北九州市 「北九州市都市計画審議会」 委員
新潟市 「新潟市新バスシステム事業評価委員会」 委員長
龍ヶ崎市 「龍ヶ崎市最上位計画策定審議会」 委員
桜川市 「桜川市都市計画マスタープラン策定委員会」 委員
静岡市 「静岡市立地適正化計画策定アドバイザー会議」 委員長
積水化学工業株式会社 「朝霞市スマートタウン検討委員会」 委員
みち研究所 「道路空間高度化研究会」 委員
計量計画研究所 「さいたま市超小型モビリティ検討会」 委員

氏 名	張 勇兵	職 名	教授
専攻（博士後期課程）	社会工学専攻		
専攻（博士前期課程）	社会工学専攻		
担当学類	社会工学類		
研究分野	情報処理、通信ネットワーク、性能評価		

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：
 - 社会工学類：情報ネットワーク／情報技術実験／情報リテラシー・演習／社工専門英語
 - 大学院：情報ネットワーク
- ◆ 指導学生数：
 - 社会工学類生：2人
 - 社会工学類科目履修生（交換留学生）：1人
 - 社会工学専攻博士前期課程：8名
 - 社会システム・マネジメント専攻博士後期課程：1名
 - 社会工学専攻研究生：2名

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：
 - モバイルクラウドにおけるデータの配置に関する研究、移動端末負荷の効率的なオフローディングに関する研究、大曽根タクシー株式会社との GPS 配車データ分析に関する共同研究
- ◆ 著書・論文等：
 - K. Moriyama and Y. Zhang: An Efficient Distributed TDMA MAC Protocol for Large-Scale and High-Data-Rate Wireless Sensor Networks, *Prof. IEEE Int. Conf. Advanced Information Networking and Applications (AINA-2015)*, pp. 84-91, Gwangju, Korea (March 25-27, 2015).
 - Y. Tao, Y. Zhang, and Y. Ji: Efficient Computation Offloading Strategy for Mobile Cloud Computing, *Prof. IEEE Int. Conf. Advanced Information Networking and Applications (AINA-2015)*, pp. 626-633, Gwangju, Korea (March 25-27, 2015).
 - 桑鶴颯、張勇兵、塚本一也：大曽根タクシーにおける GPS 配車データ分析と効率的な配車方法の提案、オペレーションズ・リサーチ学会 2016 年春季研究発表会、1 ページ、東京 (2016 年 3 月 17-18 日).

S. Yang, X. Bei, Y. Zhang, and Y. Ji: Application Offloading based on R-OSGi in Mobile Cloud Computing, *Prof. IEEE Int. Conf. Mobile Cloud Computing, Services, and Engineering (MobileCloud2016)*, pp. 46-52, Oxford, UK (Mar. 29-Apr. 1, 2016).

◆ 学会発表等：

◆ その他：

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
システム情報系運営委員会委員、システム情報系人事委員会、システム情報工学研究科運営委員会委員、香港理工大学との国際交流協定責任者、筑波サイエンスウィークにおける社会工学類主催セッションの責任者
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
社会工学類長、社会工学専攻運営委員

4. 学外の社会貢献

- ◆ 各種活動
Associate Editor (2007～), Journal of Peer-to-Peer Networking and Applications, Springer.
Program Committee, [IEEE Int. Conf. Computer Communications \(INFOCOM2015\)](#), Hong Kong, April 26-May 1, 2015.
Program Committee, [IEEE Int. Wireless Commnu. & Mobile Comput. Conf. \(IWCMC2015\)](#), Dubrovnik, Croatia, August 24-27, 2015.
Program Comiittee, Ad Hoc and Sensing Networking Symp., IEEE Int. Conf. Communications (ICC2015), London, UK, June 9-12, 2015.
Reveiwer for J. Wireless Network, IEEJ Trans. Fundamentals and Materials

氏 名	堤 盛人	職 名	教授
専攻（博士後期課程）	社会工学専攻 専任		
専攻（博士前期課程）	社会工学専攻、サービス工学学位プログラム 専任		
担当学類	社会工学類		
研究分野	応用空間統計学，土木計画学		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類 線形代数Ⅱ 国土・地域・都市の政策評価 都市計画マスタープラン実習（共同）
大学院 地域科学（共同）

◆ 指導学生数：

社会工学類 2 人 社会工学専攻 博士前期課程 5 人 博士後期課程 3 人
社会システム・マネジメント専攻 1 人

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

研究代表者 日本学術振興会科学研究費補助金・基盤研究(B) 『空間的自己相関を考慮した地域間フローの計量分析と空間詳細化』

研究代表者 朝日航洋株式会社 受託研究 『道路台帳を活かした道路アセットマネジメントに関する研究』

研究代表者 株式会社帝国データバンク 受託研究 『空間情報と大規模企業データを用いた事業所間取引構造に関する研究』

研究代表者 株式会社タス 奨学寄付金 『不動産証券化サービスに関する研究』

研究代表者 朝日航洋株式会社 奨学寄付金 『道路台帳を活かした道路アセットマネジメントに関する研究』

研究代表者 三幸エステート株式会社 奨学寄付金 『オフィス賃貸マーケットに関する研究』

研究分担者 日本学術振興会科学研究費補助金・基盤研究(A) 『地理情報科学と都市工学の空間情報解析融合技術の戦略的活用』（代表：鈴木勉）

研究分担者 日本学術振興会科学研究費補助金・基盤研究(A) 『老朽化する都市インフラの選択集中整備に関する理論・実証研究』（代表：大澤義明）

研究分担者 日本学術振興会科学研究費補助金・基盤研究(B) 『交通関連調査体系の再構築と政策評価への展開』（代表：石田東生）

研究分担者 日本学術振興会科学研究費補助金・基盤研究(C) 『ビッグデータを用いた不動産市場の社会的動学の特性に関する研究』（代表：川口有一郎）

研究分担者 内閣府 戦略的イノベーション創造プログラム (SIP) 委託研究費 『戦略的イノベーション創造プログラム 道路インフラマネジメントサイクルの展開と国内外への実装を目指した統括的研究』(代表：前川宏一)

◆ 著書・論文等：

- 1) 村上大輔・堤盛人：「地価公示・都道府県地価調査における標準地・基準地点の配置問題への地球統計学の応用」,『土木学会論文集 D3 (土木計画学)』, Vol.71, No.2, pp.31-43, 2015.
- 2) Hajime Seya, Daisuke Murakami, Morito Tsutsumi and Yoshiki Yamagata: Application of LASSO to the eigenvector selection problem in eigenvector based spatial filtering, *Geographical Analysis*, Vol. 47, Issue 3, pp 284-299, 2015.
- 3) Daisuke Murakami and Morito Tsutsumi: Area-to-point parameter estimation with geographically weighted regression, *Journal of Geographical Systems*, Vol.17, Issue 3, pp. 207-225, 2015.

◆ 学会発表等：

- 1) Kazuki Tamesue and Morito Tsutsumi: Model Specification and Estimation for Count Data in Spatial Econometrics, presented at the Nineth World Conference of the Spatial Econometrics Association, Miami, USA, 22-23 of May, 2015.
- 2) 爲季和樹・堤盛人：「カウントデータにおける空間計量経済モデル」,『土木計画学研究・講演集』, Vol.51, (CD-ROM 講演番号：297), 6月6日～7日, 2015.
- 3) 大原明彦・堤盛人・野田 昭彦・絹川 善明・新井 千乃：「自治体管理道路の公共施設マネジメントにおける GIS を活用した支援システム」,『土木計画学研究・講演集』, Vol.51, (CD-ROM 講演番号：135), 6月6日～7日, 2015.
- 4) 菊川康彬・堤盛人：「企業間取引データを用いた事業所間における取引関係の推定とその活用方策」,『土木計画学研究・講演集』, Vol.51, (CD-ROM 講演番号：294), 6月6日～7日, 2015.
- 5) Takahiro Yoshida and Morito Tsutsumi: Regression Model for Compositional Data using a spatial econometric approach, presented at the 6th International Workshop on Compositional Data Analysis, Girona, Spain, June 1-5, 2015,
- 6) Takahiro Yoshida and Morito Tsutsumi: Compositional data model considering spatial dependency, presented at Spatial Statistics 2015, Avignon, France, 9-12 June.
- 7) Sho Kuroda, Morito Tsutsumi, and Toyokazu Imazeki: Vacancy Rate in Tokyo Office Market: Spatial Dynamics in Short-Run, presented at the 20th AsRES Annual Conference 2015, Washington D.C., July 6-9, 2015.
- 8) Fujii, Yoko Hozumi, Tomoyasu Iida, Sho Kuroda, and Morito Tsutsumi: Analysis on Natural Vacancy Rate for Rental Apartment in Tokyo's 23 Wards Excluding the Bias from Newly Constructed Units using TAS Vacancy Index,

9) 湯本 崇・堤 盛人：「県管理の道路を対象とした資本ストック推計における物量ストック法適用の可能性」,『地理情報システム学会講演論文集』, Vol.24, D-2-4, (CD-ROM), 10月10日～11日, 2015.

10) 吉田崇紘・堤 盛人：「組成データ解析手法を用いた人口構成比データのクラスタ分析」,『地理情報システム学会講演論文集』, Vol.24, F-7-5, (CD-ROM), 10月10日～11日, 2015.

11) 菊川康彬・堤盛人：「事業所単位での取引関係の推定および取引距離からみた産業の集積」, 第29回応用地域学会, 慶応義塾大学三田キャンパス, 11月28日～29日, 2015.

◆ 受賞：

2015年10月 地理情報システム学会 学会賞（著作部門）（瀬谷創・堤盛人：『空間統計学 自然科学から人文・社会科学まで』, 朝倉書店, 2014.）

2015年10月 （独）日本学術振興会科学研究費補助金 第1段審査表彰受賞

3. 学内運営

◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：

全学：国立大学法人筑波大学資金運用委員会委員

理工学群：総合政策室員

◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：

社会工学専攻：運営委員会委員

社会工学類：

1) 運営委員

2) 卒業研究梗概集作成委員

3) 4年生担任

4. 学外の社会貢献

◆ 学会活動（役員/委員, 論文査読等）

1) 一般社団法人 日本写真測量学会 評議員

2) 日本不動産金融工学学会 評議員

3) 査読委員/査読者：Review of Urban & Regional Development Studies, 土木計画学研究・論文集 Vol.32, 応用地域学研究, 土木学会論文集 D3（土木計画学）, 土木学会論文集 F4（建設マネジメント）, 自然災害科学・特別号, GIS—理論と応用, ジャレフ・ジャーナル（不動産ファイナンス・不動産経済学研究）, 14th World Conference on Transport Research

◆ 社会的活動

1) 総務省 『政策評価審議会』 専門委員

2) 国土地理院 『総合評価委員会』 委員

- 3) 国土地理院 『電子国土賞選考委員会』 委員
- 4) 国土交通省 『地域道路経済戦略検討会』 委員
- 5) 茨城県 『河川整備計画検討委員会』 委員
- 6) 公益社団法人日本測量協会 『地理空間情報専門技術委員会』 委員

◆ その他兼業

株式会社タス 非常勤顧問

氏 名	中村豊	職 名	教授
専攻（博士後期課程）	社会システム工学		
専攻（博士前期課程）	社会システム工学		
担当学類	社会工学類		
研究分野	理論経済学。意思決定論		

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：微積分Ⅰ、意思決定論、意思決定理論
- ◆ 指導学生数：4年生3名、修士1年1名、修士2年1名

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：

効用理論とその一般化に関する理論研究を行った。
- ◆ 著書・論文等：
 1. Nakamura, Y. (2015) Mean-variance utility. Journal of Economic Theory Vol. 160, pp. 536-556.
 2. Nakamura, Y. (2015) State-dependent strength-of-preference. Mathematical Social Sciences, Vol. 78, 64-68.
 3. Nakamura, Y. (2015) Differentiability of von Neumann-Morgenstern utility functions. Journal of Mathematical Economics, Vol. 60, 74-80.
- ◆ 学会発表等：
- ◆ その他：

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：全学入試実施委員
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：運営委員（社会工学類、社会工学域）、入試実施委員長（社会工学類）、人事世話人（社会工学域）

4. 学外の社会貢献

- ◆ 各種活動

氏 名	原田 信行	職 名	准教授
専攻（博士後期課程）			
専攻（博士前期課程）			
担当学類	社会工学類		
研究分野	中小企業経済学、計量経済学		

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：
 - 学類 統計Ⅰ／金融論
 - 大学院 企業評価論
- ◆ 指導学生数：
 - 社会工学類 3名
 - 社会工学学位P 3名
 - 社会システム・マネジメント専攻 1名

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：
 - 科学研究費補助金 基盤研究（C）「中小企業の雇用・技術と日本経済の再生」（研究代表者）
- ◆ 著書・論文等：
 - 原田信行「開業と廃業」、『商工金融』第65巻第6号、pp. 5-30、商工総合研究所、2015年6月
 - 宮川努・枝村一磨・尾崎雅彦・金榮慤・滝澤美帆・外木好美・原田信行「無形資産投資と日本の経済成長」、RIETI Policy Discussion Paper 15-P-010、56 pages、2015年6月
 - Dasher Richard, Nobuyuki Harada, Takeo Hoshi, Kenji Kushida and Tetsuji Okazaki, “Institutional Foundations for Innovation-Based Economic Growth”, NIRA Report, 73 pages, July 2015

3. 学内運営

- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
 - 社会工学専攻 カリキュラム委員会委員
 - 社会工学類 カリキュラム委員会委員
 - 社会工学類長候補者選挙管理委員会委員長

氏 名	藤井さやか	職 名	准教授
専攻（博士後期課程）	社会工学専攻		
専攻（博士前期課程）	社会工学専攻 専任 環境科学専攻 兼任		
担当学類	社会工学類		
研究分野	都市計画、まちづくり法制、住環境整備、団地再生、コミュニティ形成		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類 総合科目・都市・地域・環境を学ぶⅠ・Ⅱ・Ⅲ／都市計画事例講義及び実習

大学院前期課程 プレイス・メイキング／住環境計画論

社会工学ワークショップⅠ・Ⅱ、社会工学ファシリテーター育成プログラムⅠ・Ⅱ（国際交流ワークショップA・B、常総まちづくりワークショップ、子ども大学）

◆ 指導学生数：

社会工学類：3人／社会工学専攻：1名／環境科学専攻：0名

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

- 平成 26-28 年度科学研究費・基盤研究（C）・「北米における公的住宅団地の再々開発の実態分析と日本への示唆」（代表）
- 平成 25-28 年度科学研究費・基盤研究（A）・「老朽化する都市インフラの選択集中整備に関する理論・実証研究」研究分担者（分担／代表・大澤義明）
- 平成 25-27 年度二国間交流事業共同研究／セミナー・「集約的な都市空間構造における環境負荷と生活環境の質を考慮した混合型土地利用」参加者（分担／代表・鈴木勉）
- 平成 27 年度公益財団法人三井住友海上福祉財団高齢者福祉部門研究助成「高齢化する市街化調整区域内住宅団地の土地利用規制制約の実態と柔軟化に関する研究」（代表）
- 平成 27 年度公益財団法人大林財団研究助成「老朽化するマンションの改修を核とした近隣地区再生に関する研究」（代表）
- 平成 27 年度常総市まちづくり推進事業「大学院講義と連動したワークショップ運営とまちづくり提案」（代表）
- 平成 27-28 年度公益財団法人鹿島学術振興財団「高経年団地の資源を活用した「居場所」づくりの実践研究」（分担／代表・東京大学樋野公宏）
- 平成 26 年度 一般財団法人住宅総合研究財団「住環境の維持、向上に資する都市計画提案制度の活用方策の研究」研究分担者（分担／代表・工学院大学星卓志）

◆ 著書・論文等：

- 藤井さやか：多民族が集住する公共団地の再生事業における社会的包摂に関する一考察：トロント市リージェント・パーク団地再生事業を事例として，都市計画論文集，50(3)，pp.1045-50，2015-11. （査読有）
- Ken NIITANI, Sayaka FUJII, Tomokazu ARITA: Location and Development Control of Wind Farms in Japan, Journal of Sustainable Urbanization and Regeneration, pp.113-121, 2015-9. （査読有）
- 藤井さやか：カナダ・トロント市の公共住宅団地の再生事業と社会的包摂の実践：リージェント・パーク団地の取り組み，住宅，64-11，pp.42-50，2015-11. （査読なし）
- 藤井さやか：老朽化マンション改修を核とした近隣地区再生に関する研究：カナダ・トロント市タワー・リニューアル制度に着目して，選抜梗概，集合住宅管理・再生(2)オーガナイズドセッション，日本建築学会学術講演梗概集 2015(建築社会システム)，pp.297-300，2015-09. （査読なし）
- 藤井さやか：公開空地はコモンズとなりうるか？(特集 都市居住を支えるコモンズ)，都市住宅学，90，pp.76-78，2015-07. （査読なし）

◆ 学会発表等：

- 藤井さやか：多民族が集住する公共団地の再生事業における社会的包摂に関する一考察：トロント市リージェント・パーク団地再生事業を事例として，都市計画論文集，50(3)，pp.1045-50，2015-11. 日本都市計画学会学術講演会
- Sayaka FUJII: Empowerment of former residents in public housing revitalization: Challenge of the Regent Park, Annual Meeting Program of Association of American Geographers, 2015.

◆ その他：

- 2014 年度日本都市計画学会年間優秀論文賞（2015 年 5 月 22 日）藤井さやか「カナダの大規模公共住宅団地の再生に関する研究：トロント市リージェント・パーク団地の再々開発を事例として」

3. 学内運営

◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：

なし

◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：

社会工学専攻運営委員会、社会工学類運営委員会

4. 学外の社会貢献

◆ 学会活動：

- 日本都市計画学会 都市計画法 50 年・100 年準備会 委員

➤ 日本建築学会論文集委員会委員

◆ 学術指導・講師等：

- 講師. 「子どもの遊びから考えるまちづくり」平成 27 年度いばらき子ども大学県南キャンパス. 2016 年 3 月 5 日・12 日. つくば市北条宮清大蔵.
- コーディネーター. 「竹園三丁目地域拠点再構築ワークショップ」つくば市まちなみ整備課. 2016 年 1 月 31 日及び 2 月 12 日. つくば市竹園交流センター.
- 講座講師. 「上郷高校跡地を活用して、地域を活性化させよう！」平成 27 年度つくば市まちづくり体験講座. 2016 年 2 月 7 日. つくば市豊里交流センター.
- 講演者, 「集まって住むのは、楽しい、快適、安心ー団地再生・高齢者住宅の事例からまちなか居住を考えるー」第 6 回津別まちなか再生協議会. 平成 27 年 11 月 13 日. 津別さんさん館.
- 講師. 「高齢化が進む住宅地におけるまちづくり：県南地域を対象に」2015 年度県民大学講座. 2015 年 10 月 17 日. 茨城県県南生涯学習センター.
- 出前講義「社会調査法」2015 年 6 月 13 日・27 日・7 月 4 日（3 日間）, 2015 年度茗溪学園探求講座.

◆ 学外委員：

- 国関係：内閣府総合特別区域の専門家評価検討会委員
- 県政関係：茨城県再生可能エネルギー導入促進事業評価委員会／神奈川県土地収用事業認定審議会／柏都市計画事業柏北部中央地区一体型特定区画整理審議会
- 都市計画審議会：墨田区／板橋区／さいたま市
- 高度地区関係：墨田区／板橋区／さいたま市
- 建築審査会：柏市／土浦市
- その他：常総市復興ビジョン懇話会・復興計画策定委員会／石岡市景観調査委員会等

氏 名	藤川 昌樹	職 名	教授
専攻（博士後期課程）			
専攻（博士前期課程）			
担当学類	社会工学類		
研究分野	日本建築史・都市史、保全型都市計画		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類 都市計画の歴史／現代まちづくりの理論と実践／都市・地域・環境を探る/
住環境計画実習／設計演習 II
大学院 都市形成史（環境計画史）

◆ 指導学生数：

社会工学類 2人／社会工学学位 P（後期）2人／社会工学学位 P（前期）11人／社会システム・マネジメント専攻 1人／生命環境科学研究科 持続環境学専攻 2人／社会工学専攻研究生 7人

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

- ・科学研究費 挑戦的萌芽研究「在来産業の近代化と都市形成の対応に関する日中比較研究」（代表）
- ・科学研究費 基盤研究(A)「被災・破損を起因とする建設の技術革新と建築様式に関する歴史的研究」（分担）
- ・科学研究費 基盤研究(C)「和風建築の形成 橋本市中心市街地における建築調査を通して」（分担）
- ・受託研究 トヨタ自動車株式会社「次世代社会システムとモビリティのあり方研究」（分担）

◆ 著書・論文等：

- ・藤川昌樹「重層的に制度を活用した真壁の歴史まちづくり」（『都市計画』314、pp. 34-37、2015年4月）
- ・劉一辰・藤川昌樹「中国天津における原英租界の開発」（『日本建築学会計画系論文集』712、pp. 1, 285-1, 294、2015年6月）
- ・曾天然・藤川昌樹「中国四川省瀘州市における白酒醸造業の近代化と都市形成の関係」（『日本建築学会計画系論文集』712、pp. 1295-1305、2015年6月）
- ・日本建築学会編『東日本大震災合同調査報告書』（建築編 4 木造建築物／歴史的建造物の被害、全 203 頁、2015年7月）

・ 荻谷勇雅・西村幸夫編『歴史文化遺産 日本の町並み』(全二巻、上巻 353 頁・下巻 328 頁、山川出版社、2016 年 1・3 月)

・ 藤川昌樹「新刊紹介『日本風景史-ヴィジョンをめぐる手法』」(『建築史学』66、pp. 220-221、2016 年 3 月)

・ 李雪・黒田乃生・藤川昌樹・安藤邦廣「中国貴州省における少数民族の穿闘式木造民家の建設工程と生産組織に関する研究：黔東南ミャオ族トン族自治州公納村を対象として」(『日本建築学会計画系論文集』81(721)、pp. 603-612、2016 年 3 月)

◆ 学会発表等：

・ 大川 泰毅・藤川昌樹「与論島朝戸・城集落における居住環境の類型に関する研究：奄美群島の集落空間 その 1」(『日本建築学会大会学術講演梗概集』集落空間、農村計画、pp. 93-94、2015 年 9 月)

・ 曾天然・藤川昌樹「中国四川省宜賓市の現代の白酒醸造業の立地と市街地の関係」(『日本建築学会大会学術講演梗概集』都市計画、pp. 783-784、2015 年 9 月)

・ 山縣杏香・藤川昌樹「大久保における鉄砲組屋敷からエスニックタウンへの変遷」(『日本建築学会大会学術講演梗概集』都市組織と空間変容、都市計画、pp. 969-970、2015 年 9 月)

◆ 講演他：

・ 「真壁の歴史まちづくり」(藤川昌樹、「高校生によるまちづくり提案」、筑波大学、2015 年 8 月 3 日)

・ 「岡山藩池田家の江戸本屋敷・向屋敷について」(藤川昌樹、武家地研究会、浦和レンタルスペースホーリィ、2015 年 8 月 30 日)

・ 「都市計画の新しい潮流：歴史・記憶・再生」(藤川昌樹、「SSH 総合大学」、岩手県立釜石高等学校、2015 年 9 月 15 日)

・ 「都市の歴史とまちづくり：桜川市真壁町を事例に」(藤川昌樹、県民大学講座「足元から考える「地方創生」：県南地域のこれからのまちづくり」、茨城県県南生涯学習センター、2015 年 10 月 10 日)

・ 「「歴史まちづくり」は津別で可能か？」(藤川昌樹、津別まちなか再生協議会第 8 回、津別町林業研修会館集会室、2016 年 2 月 5 日)

3. 学内運営

◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：

・ スペースチャージ制度検討 WG 委員

◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：

・ 社会工学専攻／社会工学類 施設委員長

4. 学外の社会貢献

◆ 学会活動

- ・ 建築史学会編集委員
- ・ 日本建築学会会員・論文査読
- ・ 日本都市計画学会会員・論文査読

◆ 学外から委嘱された委員

- ・ 芸術文化振興基金運営委員会文化財専門委員会委員
- ・ 室戸市伝統的建造物群保存地区保存審議会委員（高知県）
- ・ 茨城県景観審議会委員
- ・ 茨城県まちづくりアドバイザー
- ・ つくば市景観審議会委員
- ・ つくば市文化財保護審議会会長
- ・ 桜川市伝統的建造物群保存地区保存審議会委員
- ・ 史跡真壁城跡整備検討委員会委員（桜川市）
- ・ 桜川市歴史的風致維持向上推進協議会会長
- ・ 土浦市文化財保護審議会委員
- ・ 土浦市都市計画審議会会長
- ・ 笠間城跡調査指導委員会委員（笠間市）
- ・ スーパープロフェッショナルハイスクール運営指導委員（栃木県立宇都宮工業高等学校）
- ・ 石岡市佐久良東雄旧宅保存管理・活用計画策定委員会委員

◆ 兼業

東京大学大学院非常勤講師（新領域創成科学研究科「緑地環境デザインスタジオ」）

氏 名	松原 康介	職 名	准教授
専攻（博士後期課程）			
専攻（博士前期課程）			
担当学類	国際総合学類 社会工学類（兼担）		
研究分野	中東・北アフリカ地域の都市計画史、国際協力		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類：都市文化共生計画/都市計画の思想史/国際学を学ぶⅡ

大学院：都市形成史/中東・北アフリカ研究特講Ⅰ

◆ 指導学生数：

国際総合学類 13/社会工学類 3/社会工学学位 P（前期）8/社会工学学位 P（後期）1

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

科学研究費 若手研究（A）「多様性と共生の知恵を育む中東・北アフリカ地域の都市計画史」

科学研究費 挑戦的萌芽「アレppoの戦災状況調査と戦災復興都市計画原案の策定」

◆ 著書・論文等：

Kosuke Matsubara, Gyoji Banshoya (1930-1998): a Japanese planner devoted to historic cities in the Middle East and North Africa, *Planning Perspectives*, 31-3, /pp.391-423, 2015-10.

DOI:10.1080/02665433.2015.1073610

松原康介「1960 年代カンボジアにおける日本人専門家の都市計画国際協力」都市計画論文集、50-3、pp.808-815、2015-10.

DOI:10.11361/journalcpj.50.808

◆ 学会発表等：

Kosuke Matsubara, Japanese Collaborators in the Golden Age of Modern Khmer City and Architecture in Cambodia, 15th SCA Conference and International Symposium, 2015-05-15

Kosuke Matsubara, The result of slum upgrading projects in 1950's Algiers, Tunisia-Japan Symposium on Science, Society and Technology, 2016-02-23.

◆ その他：

Kosuke Matsubara, Les ouvrages de Gyoji Banshoya au Moyen-Orient et Maghreb, Conférence des Glycines, Alger, 2016-02-11.

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
 - 北アフリカ研究センター 兼任准教授
 - 筑波大学北アフリカ研究センター 運営委員
 - 留学生センター 運営委員（学生の海外派遣小委員委員）
 - 筑波大学留学生センター 運営委員
 - 筑波大学ボルドー事務所 運営委員
 - 筑波大学タシケント事務所 運営委員
 - 筑波大学アルマトイ事務所 運営委員
 - ホームカミングデー委員会 委員

- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
 - 社会工学専攻入試実施委員

4. 学外の社会貢献

- ◆ 各種活動
 - 日本建築学会 アジア建築交流委員会委員
 - 日本建築学会 図書委員会・文献抄録小委員会・第5部会（都市計画）委員
 - 日本都市計画学会 国際委員
 - 日仏東洋学会 広報担当幹事

- ◆ 受賞
 - 日本都市計画学会論文賞
 - East Asia Planning History Prize of the International Planning History Society
（国際都市計画史学会東アジア都市計画史賞）

氏 名	繆 瑩	職 名	教授
専攻（博士後期課程）	社会工学専攻 専任		
専攻（博士前期課程）	社会工学専攻 専任		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	組合せ論、情報セキュリティ、情報通信、グループ検査		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類：線形代数 II/情報ネットワーク/シミュレーション/社工専門英語

大学院：電子商取引

◆ 指導学生数：

社会工学類 0 人/社会工学学位 P（前期）1 人/社会工学学位 P（後期）3 人/研究生 5 人

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

科学研究費 基盤研究(C)「デジタル指紋及びグループ検査に共通する組合せ構造とアルゴリズムに関する研究」（代表）

◆ 著書・論文等：

[1] M. Cheng, H.-L. Fu, J. Jiang, Y.-H. Lo and Y. Miao, Codes with the identifiable parent property for multimedia fingerprinting, Designs, Codes and Cryptography, to appear.

[2] M. Cheng, J. Jiang, H. Li, Y. Miao and X. Tang, Bounds and constructions for 3-separable codes of length 3, Designs, Codes and Cryptography, to appear.

[3] J. Jiang, M. Cheng and Y. Miao, Strongly separable codes, Designs, Codes and Cryptography 79 (2016), 303-318.

◆ 学会発表等：

◆ その他：

3. 学内運営

◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：

全学 中国北京事務所運営委員

システム情報工学研究科 留学生委員

◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：

大学院 運営委員/留学生支援委員長/学生相談室長

学類 運営委員

域 人事懇談会世話人

4. 学外の社会貢献

- ◆ Editor: Graphs and Combinatorics, Springer, April 2002 - present.
- ◆ Editor: Journal of Combinatorial Designs, John Wiley & Sons, January 2004 - present.
- ◆ Editor: Journal of the India Society of Agricultural Statistics, August 2009 - present.
- ◆ 共同主催者: 研究集会「実験計画法と符号および関連する組合せ構造 2015」, 箱根水明荘, 平成 27 年 12 月 1 日-3 日.

氏 名	村上 暁信	職 名	准教授
専攻（博士後期課程）			
専攻（博士前期課程）			
担当学類	社会工学類		
研究分野	都市環境計画，都市農村計画		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類 都市緑地計画，社会工学実習，都市環境評価論，現代まちづくりの理論と実践

大学院 景観計画論，Landscape Planning

◆ 指導学生数：

社会工学類 1人／社会システム工学専攻 3人／社会工学専攻 1人（博士後期）／環境科学専攻 1人

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

独立行政法人科学技術振興機構 戦略的創造研究推進事業（いのちを守る沿岸域の再生と安全・安心の拠点としてのコミュニティの実装）「ひと」と「コミュニティ」の力を生かした復興まちづくりの実装」（分担）

◆ 著書・論文等：

Murakami, A., Kumakura, E., Ishikawa, M. : Reconstruction of coastal villages swept away by tsunami by 3D digital model. Journal of Disaster Research, 10(5), 818-829, 2015（査読有）

熊倉永子，村上暁信，山本幸子，石川幹子：プロシージャルモデリングによる津波被害を受けた沿岸集落の再現 プロシージャルモデリングによる津波被害を受けた沿岸集落の再現，ランドスケープ研究，78(5)，697-702，2015（査読有）

板川暢，一ノ瀬友博，村上暁信，アミ・アミナ・ムティア：ジャカルタ郊外集落内の小規模池（コラム）の分布・利用実態と消失リスクに関する研究．ランドスケープ研究，78(5)，1340-8984，2015（査読有）

村上暁信：自然環境と都市の共生：共存から相利共生へ．建築雑誌，131，28-29，2016

村上暁信：研究と計画と実践：世代による経験，モチベーションの違いとこれからの計画学研究（特集 研究と計画と実践：そのジレンマ・トリレンマ）．農村計画学会誌，34(2)，139-142，2015

村上暁信：「都市農地保全」を超えて「まちづくり」へ（特集 都市における農業・農地の

いま). 都市問題, 106(6), 50-58, 2015

◆ 学会発表等：

Akinobu Murakami : 3.11 Five years after. (MIT Center for International Studies 主催シンポジウムにおいて講演・パネラー), Cambridge, USA, 2016.03.10

◆ その他：

東日本震災復興に関わる研究として実施しているデジタルアーカイブの作成活動が, TOKYO MXテレビ「東京クラッソ!」, 『3D で蘇る岩沼市沿岸部』で放送された (2015年7月18日)。

3. 学内運営

◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：

◆ 専攻組織の業務への貢献 (委員会等)：

環境科学専攻入試実施委員会 委員長

4. 学外の社会貢献

◆ 政府・地方自治体・独立行政法人等の座長・会長・委員：

日本学術会議連携会員

守谷市都市計画審議会委員

東京都港区緑と水の委員会委員

今後の緑の基本計画のあり方に関する研究会 (国土交通省国土技術政策総合研究所) 委員
横浜市エキサイトよこはま 22 環境検討部会委員

◆ 学会活動：

日本造園学会学術委員会委員

日本都市計画学会国際委員会委員

環境情報科学センター理事

農村計画学会評議員

氏 名	山本 幸子	職 名	助教
専攻（博士後期課程）			
専攻（博士前期課程）			
担当学類	社会工学類		
研究分野	ストック活用計画，住宅計画，地域計画		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類：設計演習Ⅰ／住環境計画実習／住まいと居住環境の計画／総合科目Ⅲ

創造的復興：視点構築演習・チャレンジ学外実習／現代まちづくりの理論と実践

大学院：住環境計画論（環境科学専攻）

◆ 指導学生数：

社会工学類 2名、社会工学専攻 3名、環境科学専攻 1名

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

若手研究 B：「体験・就業支援と空き家活用を組み込んだ包括的移住支援システムの構築」（代表）

基盤研究 C：「小学校存続活動を契機とした持続的居住支援システムの有効性と課題」（分担）

基盤研究 B：「過疎地域における廃校・空き家を活用した地域主導型福祉サービスネットワークの構築」（分担）

共同研究（茨城県東茨城郡城里町）：「集落単位でのカフェ開設に向けた人材・地域資源発掘及び社会実験の実施」（代表）

◆ 著書・論文等：

- 1) 中園真人，伊藤優里，山本幸子，森川真子，吉岡絢香，「中山間地域における子育て支援施設の設置形態と利用特性」，日本建築学会計画系論文集，第 81 巻，第 721 号，2016.3
- 2) 下倉玲子，石垣文，山本幸子，小林文香，福田由美子，「住民団体活動により転入した子育て世帯の生活実態と学校・地域からの支援 小学校存続活動を契機とした持続的居住支援システムに関する研究 その 2」，日本建築学会計画系論文，第 80 巻，第 715 号，pp.2033-2042，2015
- 3) 三島幸子，中園真人，山本幸子，孔相権，「農山漁村地域における廃校を活用した複合型高齢者福祉施設の使われ方ー山口県阿武町「ひだまりの里」を対象としてー」，日本建築学会計画系論文集，第 80 巻，第 710 号，pp.785-794，2015

- 4) 中園真人, 古西雄大, 牛島朗, 山本幸子, 細田智久, 下倉玲子, 栗崎真一郎, 福田由美子, 「山口県における公立中学校の生徒・学校数の推移(1963-2011)」, 日本建築学会技術報告集, 第 21 巻, 第 48 号, pp. 747-752, 2015
- 5) 山本幸子, 中園真人, 「廃校と空き家を活用した都市農村交流プログラムの展開ー下関市菊川町「貴和の里につどう会」の事例ー」, 日本建築学会技術報告集, 第 21 巻, 第 47 号, pp. 327-332, 2015
- 6) Sachiko Yamamoto, Kyohei Ogawa, “Entry Process and Management Form into Reuse of Closed Schools by Private Organizations in Rural Areas -Case study on Nakagawa-machi, Tochigi Prefecture-”, Proc. of 10th International Symposium on City Planning and Environmental Management in Asian Countries, pp. 385-390, 2016. 1
- 7) Sachiko Mishima, Nagisa Ishibashi, Shoken Koh, Mahito Nakazono and Sachiko Yamamoto, “A Study on the Location Characteristic and Disparity of Day Care Facilities for the Elderly in Yamaguchi Prefecture”, Proc. of 10th International Symposium on City Planning and Environmental Management in Asian Countries, pp. 379-383, 2016. 1
- 8) Saori Ohashi, Shoken Koh, Sachiko Mishima, Mahito Nakazono, and Sachiko Yamamoto, “A Study on the supply method of day care facilities in the island— The case study of Suo Oshima-cho in Yamaguchi Prefecture—”, Proc. of 10th International Symposium on City Planning and Environmental Management in Asian Countries, pp. 403-407, 2016. 1

◆ 学会発表等：

- 1) 山本幸子, 雨宮 護, 田野井雄吾, プーア・イーエマル, 石村 匠, 小川恭平, 下田春菜, 中村 江, 柳澤直哉, 「大災害後に発生する空閑地の把握と地域資源としての活用ー竜巻被災地・つくば市北条地区での実践ー」, 農村計画学会春期大会 (東京大学), e1, 2015 年 4 月 11 日
- 2) 熊倉永子, 村上暁信, 山本幸子, 石川幹子, 「プロシージャルモデリングによる津波被害を受けた沿岸集落の再現」, 日本造園学会平成 27 年度全国大会 (東京大学), 日本造園学会誌, 第 78 巻, 第 5 号, pp. 697-702, 2015 年 5 月 24 日

◆ その他：

- 1) 山本幸子：書評『都市の空閑地・空き家を考える』, 応用地域学研究, 19 号, 2015
- 2) 樋野公宏, 山本幸子：公務員宿舎の計画意図と現在の評価：居住者アンケートより (特集 住まいから見た筑波研究学園都市の半世紀), 住宅, 第 64 巻, 第 5 号, pp. 13-20, 2015

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
 - 社会工学専攻 施設委員会：委員
 - 社会工学専攻 建築士受験資格運営委員会：委員
 - 環境科学専攻 就職委員会：委員

4. 学外の社会貢献

- ◆ 学会活動
 - 日本建築学会建築社会ストック委員会住宅の地方性小委員会「住宅市場政策WG」メンバー
 - 日本建築学会住宅系研究報告会運営幹事
- ◆ 学外から委嘱された委員
 - つくば市ホテル等建築審議会委員
 - 土浦市空き家等審議会委員
 - 土浦市まち・ひと・しごと創生有識者会議委員
 - 土浦市公共施設等総合管理計画策定委員会委員
 - 城里町総合計画審議会委員
 - 城里町まち・ひと・しごと創生有識者会議委員
 - 利根町まち・ひと・しごと創生有識者会議委員
- ◆ 講演，パネルディスカッション
 - 1) 山本幸子，「農村の民家を地域資源として継承し、活用する」，NPO 法人つくば建築研究会第 10 回市民シンポジウム「つくばと筑波-周縁の力を未来へ」基調講演（つくば市），2015 年 11 月 14 日
 - 2) 山本幸子，第 3 回津別町まちなか再生協議会、講演「建築ストックを活用して人の流れを変える」，2015 年 5 月 22 日

氏 名	吉瀬 章子	職 名	教授
専攻（博士後期課程）	社会工学専攻		
専攻（博士前期課程）	社会工学専攻		
担当学類	社会工学類		
研究分野	数理最適化，オペレーションズ・リサーチ，サービス工学		

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：
- ◆ 学類 問題発見と解決／数理最適化法／数学の言葉
- ◆ 大学院前期課程 数理最適化理論／ファシリテーター育成プログラム
- ◆ 指導学生数：計 20 名
 - システム情報工学研究科
 - 社会システム・マネジメント専攻 3 名
 - 社会システム工学専攻 0 名
 - 経営・政策科学専攻 0 名
 - 社会工学専攻・社会工学学位プログラム 5 名
 - 社会工学専攻・サービス工学学位プログラム 8 名
 - 理工学群社会工学類 4 名

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：
 - 科学研究費 基盤研究（B）「錐最適化技術の実社会における利活用を加速させる基礎理論の整備と深化」（代表）
 - 共同研究（トヨタ自動車株式会社）「次世代社会システムとモビリティの新価値研究」（共同代表）
 - 共同研究（理想科学工業株式会社）「購買データに基づく顧客行動分析」（代表）
 - 科学研究費 基盤研究（A）「老朽化する都市インフラの選択集中整備に関する理論・実証研究」（分担）
 - 科学研究費 基盤研究（C）「実用的な微分フリー最適化アルゴリズムの開発」（分担）
 - 科学研究費 基盤研究（C）「ネットワーク構造解析アルゴリズムの開発とネットワークアルゴリズムの総合的展開」（分担）
- ◆ 著書・論文等：
 - Yosuke Watanabe, Toshiki Sato, Kiyo Ishii, Tomohiro Kudoh, Maiko Shigeno and Akiko Yoshise, "Routing and wavelength/sub-wavelength path assignment to

maximizing accommodated traffic demands on optical networks,” *International Symposium on Scheduling 2015*, (2015)202-207, 査読有.

Akihiro Tanaka and Akiko Yoshise, “Tractable subcones and LP-based algorithms for testing copositivity,” Discussion Paper Series No.1338, Institute of Policy and Planning Sciences, University of Tsukuba, (2015)1-25, 査読無.

Toshiki Sato, Yuichi Takano, Ryuhei Miyashiro and Akiko Yoshise, “Feature subset selection for logistic regression via mixed integer optimization,” *Computational Optimization and Applications* (2016)1-16, DOI: 10.1007/s10589-016-9832-2, 査読有.

Yosuke Watanabe, Toshiki Sato, Kiyo Ishii, Tomohiro Kudoh, Maiko Shigeno and Akiko Yoshise, “Routing and wavelength/sub-wavelength path assignment to maximizing accommodated traffic demands on optical networks,” *Special Issue on Advanced Production Scheduling*, (2016) 掲載予定, 査読有.

◆ 学会発表等：

Akiko Yoshise, “Some Tractable Subcones for Testing Copositivity,” *Paths, Pivots and Practice: The Power of Optimization*, 2015 年 6 月 11 日～13 日, HEC Montreal.

Akiko Yoshise, “Some Tractable Subcones for Testing Copositivity,” *CORS/INFORMS 2015*, 2015 年 6 月 14 日～17 日, Sheraton Hotel, Montreal.

横尾知孝, 吉瀬章子, 「Nuclear ノルムを用いた行列ランク最小化手法の協調フィルタリングへの応用」, 日本オペレーションズ・リサーチ学会 2016 年春季研究発表会, 2016 年 3 月 17 日～18 日, 慶應義塾大学矢上キャンパス.

松下芽以, 吉瀬章子, 「神栖市における津波避難シミュレーションに基づく避難時の移動手段の検討」, 日本オペレーションズ・リサーチ学会 2016 年春季研究発表会, 2016 年 3 月 17 日～18 日, 慶應義塾大学矢上キャンパス.

田中彰浩, 吉瀬章子, 「半正定値基底とこれを用いて構成可能な共正值部分錐について」, 日本オペレーションズ・リサーチ学会 2016 年春季研究発表会, 2016 年 3 月 17 日～18 日, 慶應義塾大学矢上キャンパス.

成島大悟, 田中彰浩, 吉瀬章子, 「SD 基による錐最適化問題の近似について」, 研究集会「最適化：モデリングとアルゴリズム」, 2016 年 3 月 22 日～23 日, 政策研究大学院大学.

横尾知孝, 田中彰浩, 吉瀬章子, 「Nuclear ノルムを用いた行列ランク最小化手法の協調フィルタリングへの応用」, 研究集会「最適化：モデリングとアルゴリズム」, 2016 年 3 月 22 日～23 日, 政策研究大学院大学.

◆ その他：

なし

3. 学内運営

◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：

- (全学) 保育施設委員会委員
- ◆ 専攻組織の業務への貢献 (委員会等) :
 - (専攻) 経営政策科学専攻長, 社会工学専攻サービス工学学位プログラムリーダー, 施設委員会委員
 - (学類) 卒業生連絡委員会委員長

4. 学外の社会貢献

- ◆ 学会活動 (役員/委員、論文査読等)
 - Pacific Journal of Optimization 編集委員
 - 日中最適化会議運営委員
 - 国際会議 ICCOPT 2016 運営委員
 - 国際会議 ICCOPT 2016 Best Paper Prize committee
 - 日本オペレーションズ・リサーチ学会表彰委員
 - 日本オペレーションズ・リサーチ学会数理計画研究部会 (RAMP) 運営委員
 - 論文査読 : Mathematical Programming, SIAM Optimization, Journal of Computational and Applied Mathematics, Optimization Letters, Nonlinear Analysis Series A: Theory, Methods & Applications, 等
- ◆ 学外から委嘱された委員、兼業など
 - 科学技術振興調整費評価作業部会委員
 - 茨城県サービス産業生産性・付加価値向上促進事業審査会委員
 - 竜ヶ崎第一高等学校 SSH 運営指導委員会 委員長

氏 名	吉野 邦彦	職 名	教授
専攻（博士後期課程）	社会工学専攻（兼）持続環境学専攻		
専攻（博士前期課程）	環境科学専攻（兼）社会工学専攻		
担当学類	社会工学類		
研究分野	環境影響評価，環境リモートセンシング		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類：都市計画実習，都市計画情報実習，都市環境評価論

博士前期課程：環境空間情報工学（環境科学専攻），環境科学実習（春および秋学期），

◆ 指導学生数：

大学院前期課程（環境科学専攻） 2 名

大学院後期課程（持続環境学専攻） 3 名

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

1) 科研費 基盤研究（一般）(B) (代表) 湿原生態系保全のためのリモートセンシング

観測諸元の解明

2) リモートセンシング・Soil Line の空間特性研究

◆ 著書・論文等：

1) Pham Tien Dat and Yoshino Kunihiro(2015). Impacts of Mangrove Management Mechanism on Mangrove Change In The Northern Coast Of Vietnam. TROPICS Vol.24, No.4 : 141-151. DOI : 10.3759/tropics24.141

2) Pham Thi Thanh, Kunihiro Yoshino, Nguyen Thi My Quyn(2015). Correlation analysis between Enhance Vegetation Index and Wood Volume in Thua Thien Hue Province, Vietnam. TROPICS Vol.24, No.4 : 181-186. DOI : 10.3759/tropics24.181

◆ 学会発表等：

1) Taohong Zou, Jiquan Zhang, Kunihiro Yoshino (2015). Ecological risk assessment of land use change in the Northeast China: A case study of Linjiang area, Proceedings of 2015 International Conference on Environmental Engineering and Applications, July 9-10, 2015. Chengdu, China.

2) Kunihiro Yoshino and Fusayuki Kanda(2015). CHANGE DETECTION OF HIGH MOOR PLANT COMMUNITIES IN THE KUSHIRO WETLANDS BY LOW ALTITUDE BALLOON AND CESSNA IMAGES. Proceedings of ACRS2015, TU1.2.6, Manila, Philippine

3) Kunihiro Yoshino, Taohong Zou, Khishigsuren Nyamsambuu, Tien Dat Pham, and

Hiroshi Okabe(2015). SPATIAL DEPENDENCY OF SOIL LINE COEFFICIENTS DERIVED FROM LANDSAT ETM+ AND MODIS IMAGERY IN KYRGYZSTAN. Proceedings of ACRS2015, TU4.2.3, Manila, Philippine

4) Zou Taohong and Kunhiko Yoshino(2015). USING MODIS TIME SERIES DATA TO DETECT FOREST COVER CHANGE DURING 2000 TO 2010: A CASE STUDY OF DAXING' ANLING AREA, CHINA. Proceedings of ACRS2015, TU3.1.2 Manila, Philippine

- ◆ その他：

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
システム情報工学研究科： FD 委員
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
社会工学域：FD 委員長（アニュアルレポート，ファカルティセミナー，防災，懇親会，
産学連携，社会連携，授業評価担当）
学群：3 年生クラス担任（学生相談，クラス連絡会）

4. 学外の社会貢献

- ◆ 茨城県環境影響評価審査会委員 2013-08～2014-07～2015-07～
- ◆ つくば市環境審議会委員 2015-10～
- ◆ JSPRS 編集委員・評議委員
- ◆ JAXA GCOM 研究プロポーザル査読員
- ◆ 「釧路湿原自然再生協議会」委員 2015-12～

氏 名	渡邊 真一郎	職 名	教授
専攻（博士後期課程）			
専攻（博士前期課程）			
担当学類	社会工学類		
研究分野	組織行動論、産業・組織心理学		

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：
 - 学類 経営組織論/社会調査実習/社工専門英語
 - 大学院 組織行動論
- ◆ 指導学生数：
 - 社会工学類 3名 / 社会工学学位P（前期）3名

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：
 - 科学研究費 基盤（B）看護行動研究への組織心理学アプローチ（代表）
- ◆ 著書・論文等：
- ◆ 学会発表等：
 - Watanabe, S., Akiyama, F., Kanazawa, Y., Milovanovic, I. (2015).
Proposing a multidimensional model of continuance organizational
commitment in a context of Japanese female nurses. *Association for
Psychological Science Poster Session, May 24.*
[http://www.psychologicalscience.org/index.php/convention/2015-convention-
program#.VUo2zoz4VZ8](http://www.psychologicalscience.org/index.php/convention/2015-convention-program#.VUo2zoz4VZ8)
- ◆ その他：

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
 - システム情報系 研究倫理委員会・委員
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
 - 社会工学類 就職委員会・委員長

4. 学外の社会貢献

Cornell Admissions Ambassador Association Network 日本支部委員

氏 名	渡辺 俊	職 名	教授
専攻（博士後期課程）	社会工学		
専攻（博士前期課程）	社会工学		
担当学類	社会工学類		
研究分野	建築計画、都市計画、空間情報科学、デザイン科学		

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：
 - 学類 都市空間の計画とデザイン／都市計画情報実習／
 - 基本製図／住環境計画実習／
 - 大学院 空間情報科学
- ◆ 指導学生数：
 - 社会工学類 3人／社会システム工学専攻 4人／研究生 4人

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：
 - 科学研究費 基盤研究(A)「地理情報科学と都市工学を融合した空間解析手法の新展開」
(分担)
 - 科学研究費 基盤研究(A)「老朽化する都市インフラの選択集中整備に関する理論・実証研究」(分担)
- ◆ 著書・論文等：
 - Michio Matsubayashi, Shun Watanabe : Generating Schematic Diagrams Of Mep Systems From 3d Building Information Models For Use In Conservation, Proceedings of the 20th International Conference on Computer-Aided Architectural Design Research in Asia (CAADRIA 2015), pp.293-302
2015.6
 - ◆ 学会発表等：
 - 後閑晃司、渡辺俊：サイバースペースにおける国内大学のプレゼンスに関する一考察 - 各言語版 Wikipedia の比較による大学情報整備実態の分析-、日本建築学会大会学術講演梗概集、2015.9
 - 堀之内志帆、松林道雄、渡辺 俊：ネットワーク分析に基づく複数中心性による都市構造の時系列分析 -茨城県つくば市を対象として-、日本建築学会大会学術講演梗概集、2015.9
 - 渡辺俊：日本民家の形態文法、第 38 回情報・システム・利用・技術シンポジウム論文集 pp.289-292、2015.12

後閑晃司、渡辺俊：サイバースペースにおける国内大学のプレゼンスの定量化 Wikipedia 記事の「重要度」測定を通して、第 38 回情報・システム・利用・技術シンポジウム論文集、pp.297-300、2015.12

松林道雄、渡辺俊：3D モデルを用いた既存大学施設の修繕記録の内容に関する検討、日本建築学会 第 38 回情報・システム・利用・技術シンポジウム論文集、pp.245-248、東京、2015.12

◆ その他：

渡辺俊：形態文法とは何か（デザイン生成の理論）、日本建築学会デザイン科学セミナー、2015. 4. 27

3. 学内運営

◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：

TSUKUBA GLOBAL SCIENCE WEEK 2015

研究科情報環境委員会

◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：

社会工学専攻 コンピュータ委員

社会工学類 コンピュータ委員、広報委員

4. 学外の社会貢献

◆ 国土技術総合研究所技術提案評価審査会委員

◆ 日本建築学会日本建築学会奨励賞選考委員会委員

◆ 日本建築学会情報システム利用技術本委員会委員

◆ 日本建築学会デザイン科学教育方法研究小委員委員

◆ 日本建築学会設計情報検証WG委員

◆ 日本建築学会情報システム利用技術シンポジウム論文WG委員